781
333

恩給法関係法令集

内閣恩給局編

0007175000

0007175-000

781－333

恩給法関係法令集

内閣恩給局・編

内閣印刷局

昭14

ABH

781
333

恩給法關係法令集

內閣恩給局編纂

恩給法關係法令集　目次

○恩給法（大正一二、法律四八）……一
○恩給法施行令（大正一二、勅令三六七）……二七
○恩給給與規則（大正一二、勅令三六九）……五五
○恩給給與細則（大正一二、陸軍省令七）……六〇
○昭和七年法律第十三號（恩給ノ増額補給及停止ニ關スル法律）……九二
○昭和七年法律第十三號施行令（昭和七、勅令二〇四）……九三
○昭和七年法律第十三號恩給更正ニ關スル件（昭和七、閣令一）……九五
○昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則（昭和七、遞令二六）……九七
○昭和八年法律第五十號ニ依ル恩給更正及請求手續（昭和八、閣令三）……九八
○昭和十三年法律第五十八號附則ニ依ル恩給更正及請求手續（昭和一三、閣令三）……一〇〇
○昭和十三年法律第五十八號附則ニ依ル恩給更正規則（昭和一三、遞令四八）……一〇五
○軍事扶助法ニ依ル扶助料ノ通算ニ關スル件（大正一二、閣告二）……一〇五
○外國勤務加算ニ關スル件（昭和三、閣告一）……一一四
○在勤加俸及在勤加俸加算ニ關スル件（昭和四、閣告三）……一一四
○優劣地勤務加算ニ關スル件（昭和一二、閣告六）……一一六
○恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則（大正一二、勅令四三九）……一一七
○恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則（大正一二、大令三〇）……一二〇
○昭和八年大蔵省令第二十五號（一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程）……一二二
○宮內省恩給令（大正一二、皇室令一六）……一二三

目次

○宮內省恩給令施行規則（大正一二、宮令一二）……一四〇
○宮內省恩給給與規則（大正一二、宮令一四）……一四八
○更正手續（大正一二、宮令一五）……一五八
○昭和八年皇室令第二號（恩給ノ增額等ニ關スル件）……一五九
○明治四十三年勅令第二十五號（郵便官署ヲシテ年金及恩給ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件）……一六二
○年金恩給支給規則（大正一二、遞令九二）……一六二
○恩給金庫法（昭和一三、法律五七）……一六四
○恩給金庫法施行令（昭和一三、勅令四四三）……一六九
○恩給金庫法施行規則（昭和一三、閣、大令一）……一七四
○昭和十三年勅令第三百六號（恩給金庫ノ設立ニ關スル件）……一七六

781
333

●恩給法

大正十二年四月十四日
法律第四十八號

改正　昭和八年第五〇號、一三年第五六號、一四年第二八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

恩給法

第一條　官吏其ノ他法令ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二條　本法ニ於テ恩給ト稱スルハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ始メ其ノ消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝ニ一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二　裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ特別法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ裁定官廳ハ支給廳ニ通知シ恩給ノ支給ヲ差止ムヘシ

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審查會ニ諮問スヘシ

恩給審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮內官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ

以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條 軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二 國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二 勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條 教育職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二 道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條 警察監獄職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛

二 看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守

三 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條 待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職

二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄職員（前條第二號ニ揭クル者ヲ除ク）、少年救護院職員及矯正院職員

三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四 前三號ニ揭クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

五 在滿學校組合待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ召集、非現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス

三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職

二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス

三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地境內ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 削除

第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一 戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二 戰地外ニ在リテ航空部隊ニ屬シ航空基地ニ於テ特殊ノ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月

三 前號ニ揭クルモノヲ除クノ外戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、航空基地及航空基地タル期間、戰務ノ範圍竝戰爭

ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乘シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二　休職、待命、罷休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條　左ニ揭クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六　宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條　左ニ揭クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員ノ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二　公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後三年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件（傷病ノ程度ヲ除ク）ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

ニ達セサリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條 前二條ノ規定ニ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階

等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ動續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一 後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二 後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二 前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條 前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前四條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員トシテ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三　之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

下士官以上ノ軍人ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

書籍監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前五項ニ規定スル納金ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

第二節　恩給金額

第五十九條ノ二　本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ノ俸給(軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス)ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ

一　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ(軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス)ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス退職又ハ死亡前一年內ニ昇給アリテ退職又ハ死亡ノ際昇給ナカリシトキ亦同シ

二　前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限リ前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ增額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年內ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ俸給ノ關係ニ於テハ就職當時ノ俸給ヲ以テ在職シタルモノト看做シ計算ス

本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十條　文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實動續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ動續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ動續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十一條ノ二　下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加

ヘタル金額トス

第六十條第三項竝前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、青年學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職後三年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條ノ二 下士官以下ノ軍人前條ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ受ケタル後四年內ニ第四十六條第二項又ハ第四十六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルニ至リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病賜金ノ一部ヲ返還セシム

第六十七條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條 削除

第七十條 警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　削除

第三款　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前二項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

於ケル加給ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

但出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額

ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一官吏恩給法
一官吏遺族扶助法
一軍人恩給法
一市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法
一府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治二十四年法律第四號
一明治二十九年法律第十三號
一官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一明治二十九年法律第七十八號
一明治三十三年法律第七十五號
一明治三十三年法律第七十六號
一明治三十三年法律第七十七號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一明治三十五年法律第二十九號
一在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治四十年法律第四十八號
一明治四十一年法律第四十九號
一明治四十三年法律第三十五號
一明治四十四年法律第六十一號
一明治四十四年法律第六十七號
一明治四十五年法律第十一號
一明治四十五年法律第十二號
一大正七年法律第三十號
一大正十年法律第三十五號
一大正十年法律第九十四號
一大正十一年法律第十八號
一大正十一年法律第十九號
一明治二十二年勅令第百三十三號
一明治二十三年勅令第九十八號
一明治二十五年勅令第十八號
一明治二十五年勅令第三十二號
一明治三十二年勅令第百九十六號
一明治三十八年勅令第二百二十九號
一明治四十年勅令第百八十八號
一明治四十年勅令第百八十九號
一明治四十一年勅令第七十一號
一明治四十五年勅令第七十號
一大正七年勅令第六十二號

一大正十年勅令第二百六十八號
一大正十一年勅令第八十七號
一大正十一年勅令第二百八十四號
一明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシタ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ準用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ

依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

關東局職員ニシテ滿洲國新京特別市ニ在勤スルモノハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ關東州ニ在勤スルモノト看做ス

第一項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在職年月數ニ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查トシテノ在職年月數ニ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　削除

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ俟タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條　明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡查又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第百三條　北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條(改正前又ハ改正後)及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條 第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 傷病年金ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付テハ之ヲ給ス但シ本法施行前振慰金(之ニ準ズルモノヲ含ム)又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニハ之ヲ適用セズ

第九條 第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給(又ハ給料)ガ昇給若ハ增額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條 第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員ガ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ內同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條 前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條 第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條 第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條 恩給法施行前同法第二十三條ニ揭グル公務員トシテ普通恩給(退隱料)ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ增額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ揭グル公務員トシテノ普通恩給(退隱料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條 第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條 本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條 本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

附則 (昭和十三年法律第五十六號)

第一條 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十三年勅令第三百八十一號ヲ以テ昭和十三年六月一日ヨリ施行)

第十一條第二項ノ規定ハ恩給金庫設立後三年間之ヲ適用セズ

第二條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニシテ本法所定ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケザルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當增加恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ增給ス

第三條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ增加恩給又ハ傷病年金ヲ給ス

現症狀等差	改正症狀等差
傷病年金第一款	增加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第三款	傷病年金第二款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

第四條 本法施行ノ際恩給法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ加給ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニ付テハ其ノ扶助料年額ガ改正後ノ同條第一項第二號乃至第四號及同條第二項ノ規定ニ依リ受クベキ扶助料年額ヨリ多キトキハ其ノ加給期間ヲ經過スル迄改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第五條　本法施行前服役ニ基キ傷病ニ因リ扶助料ヲ受クル者ト雖モ其ノ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病年金ヲ給スベキ症狀ニ該當スベキ事由ヲ生ジタル者ト雖モ其ノ症狀傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第六條　恩給法施行前ニ職闘又ハ職闘ニ準ズベキ公務ノ爲傷病ニ罹リ之ガ爲死亡シ又ハ此ノ種ノ公務ニ因リ增加恩給（之ニ準ズルモノヲ含ム）ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母又ハ祖父母ニシテ軍人ノ死亡ノ當時軍人ト同一戸籍内ニ在リタルモノ又ハ現役中陸海軍兵籍簿ニ登記セラレザリシ等ノ特別事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ニ扶助料ヲ給ス但シ其ノ軍人ノ遺族ニシテ同日ニ於テ現ニ扶助料ヲ受クル者アルトキハ當該扶助料ヲ受クル權利ヲ失フ者又ハ其ノ後ニ失權事由アリタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ規定スル者ト雖モ軍人死亡ノ當時ニ於テ前項ノ事由以外ノ事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ其ノ後ニ失權事由アリタル者ニ對シテハ當該扶助料ヲ受クル權利ヲ失フ者ニハ扶助料ヲ給セズ

第一項ノ扶助料ニ付テハ昭和八年九月三十日以前ノ軍人ノ遺族ノ扶助料ニ關スル規定ニ依リ其ノ年額ヲ定ムルノ外恩給法ニ依リ之ヲ給ス

第一項ノ扶助料ニ付テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

第七條　北海道廳森林監守ヨリ引續キ同廳森林主事ト爲リ恩給法施行後退職シタル者ニハ其ノ在職年月勤續年月ヲ通算シ昭和十三年四月一日ヨリ其ノ者ノ受ク可キ恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

普通恩給ヲ給ス

（別表）

第一號表

（甲）

階等		假定俸給年額
將官及相當官	親任	七、五〇〇圓
	一高等官	六、五〇〇圓
	二同等上	五、六〇〇圓
佐尉官及相當官	三同等上	四、六〇〇圓
	四同等上	三、九五〇圓
	五同等上	三、二五〇圓
	六同等上	二、三五〇圓
	七同等上	一、七〇〇圓
	八同等上	一、四〇〇圓

（乙）

第二號表

階等		假定俸給年額
准士官	一判任等官	一、二一〇圓
下士官	二同等上	八五五圓
	三同等上	七六五圓
	四同等上	六七五圓
兵	一海軍兵等	六〇〇圓
	海軍二等兵／陸軍上等兵	五四〇圓
	海軍三等兵／陸軍一等兵	四九五圓
	海軍四等兵／陸軍二等兵	四五〇圓

傷病ノ原因タル症狀ノ等級 ＼ 階等		特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第七項
甲	戰闘又ハ戰闘ニ準ズベキ公務								
	將官 勅任待遇	圓	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二八〇	一、〇〇〇	八〇〇	五三四
	佐官 奏任待遇	圓	一、九八〇	一、五七五	一、二六〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇
	尉官 奏任待遇	圓	一、五六〇	一、二五四	一、〇〇三	七六七	五八七	四六〇	三〇七
	准士官 一判任待遇	圓	一、四〇四	一、一二八	九〇三	六九〇	五二八	四一四	二七六
	下士官 一判任待遇	圓	一、二八七	一、〇三四	八二八	六三三	四八四	三八〇	二五三
	兵 一判任待遇	圓	一、一七〇	九四〇	七五二	五七五	四四〇	三四五	二三〇

等	勅任待遇	奏任待遇	一等兵	海軍 陸軍上等兵	陸軍一等兵	陸軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵
階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵		
勅任	奏任	判任	五等乃至九等乃至一等	三等乃至一等	四等			

第五號表

傷病原因	公務ニ關スル疾病ニ罹リ	公務ニ關セス	征戰等差	第一目	第二目	第三目	第四目
甲	普通公務		下士官	五八圓	三九圓	二四圓	一一圓
乙	普通公務		兵	四八圓	三六圓	二四圓	一二圓

第四號表

傷病原因	公務ニ關スル疾病ニ罹リ	公務ニ關セス	征戰等差	第一款	第二款	第三款	第四款
甲	普通公務		下士官	二七九圓	二一三圓	一七圓	一四圓
乙	普通公務		兵	一八〇圓			

傷病ノ程度ニ依リ十分ノ一ヨリ全額ヲ加ヘタルモノトス

第四號表

傷病原因	公務ニ關スル疾病ニ罹リ	公務ニ關セス	征戰等差	第一目	第二目	第三目	第四目
甲	普通公務		下士官	五八圓	四九圓	三九圓	二四圓
乙	普通公務		兵	四八圓	三六圓	二四圓	一二圓

傷病ノ程度ニ依リ十分ノ一ヨリ全額ヲ加ヘタルモノトス

第五號表

等	勅任待遇	奏任待遇	一等兵	海軍 陸軍上等兵	陸軍一等兵	陸軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵
階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵		
勅任	奏任	判任	五等乃至九等乃至一等	三等乃至一等	四等			

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

傷病ノ程度ニ依リ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

傷病ノ程度ニ依リ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第二號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第二號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第一號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵		
等	勅任	奏任	判任	五等乃至九等乃至一等	三等乃至一等	四等		
	勅任待遇	奏任待遇	一等兵	海軍 陸軍上等兵	陸軍一等兵	陸軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵

第一號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

傷病ノ程度ニ依リ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第二號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

傷病ノ程度ニ依リ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

第三號表

傷病ノ程度	甲	乙
	勅任官又ハ親任官ニ準スヘキ公務ニ關スル疾病ニ罹リ	普通公務
第一項	一、九二〇圓	一、三四〇圓
第二項	一、三四〇圓	一、〇〇四圓
第三項	一、〇〇四圓	七三六圓
第四項	七三六圓	五四〇圓
第五項	五四〇圓	三九六圓
第六項	三九六圓	二八八圓
第七項	二八八圓	二一六圓

階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵		
等	勅任	奏任	判任	五等乃至九等乃至一等	三等乃至一等	四等		
	勅任待遇	奏任待遇	一等兵	海軍 陸軍上等兵	陸軍一等兵	陸軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵

第六號表

階級	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
率	二四割	二六割	二八割	二八割	三〇割	三六割

第七號表

階級		將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
率		一九・二割	二〇・八割	二二・四割	二二・四割	二四・〇割	三〇割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三一割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三四割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三六割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一八・〇割	一八・六割	二〇・四割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一八・〇割	一八・六割	二一・六割

第八號表

階級		將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
率		一九・二割	二〇・八割	二二・四割	二二・四割	二四・〇割	三〇割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三一割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三四割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一六・八割	一八・〇割	三六割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一八・〇割	一八・六割	二〇・四割
等級	勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
	勅任	奏任	判任				
	親任	奏任	判任				
率		一四・四割	一五・六割	一六・八割	一八・〇割	一八・六割	二一・六割

前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月（證書ノ日附ニ在ル月）ノ翌月ヨリ十二月內ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス

第一條ノ三 各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月

二 遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員竝其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ

第一條ノ四 第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ

第一條ノ五 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 內地ニ於ケル公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二 前號ニ揭クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ揭クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ大使之ヲ裁定ス

七 在滿學校組合待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者及其ノ遺族ノ恩給ハ大使之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ代ヘ在職最終ノ俸給年額（軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額）ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給養務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ揭クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ左ニ揭クル者ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

一 陸軍ノ士官候補生（見習士官タル者ヲ除ク）及軍醫候補生、陸軍豫科士官學校、陸軍幼年學校、陸軍工科學校、熊谷陸軍飛行學校、永戶陸軍飛行學校、陸軍航空整備學校、東京陸軍航空學校及陸軍通信學校ノ生徒、陸軍經理學校ノ豫科生徒竝陸軍戶山學校ノ軍樂生徒

二 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、海軍航空豫備

學生、海軍豫備生徒、海軍豫備練習生及海軍豫備補習生

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州及滿洲國ニ在リテハ大使之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ大使之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 道路管理職員制ニ依ル職員
二 地方土木職員制ニ依ル職員
三 地方產業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
四 地方測候所職員制ニ依ル職員
五 地方學校衞生職員制ニ依ル職員
六 地方社會教育職員制ニ依ル職員
七 地方社會事業職員制ニ依ル職員
八 地方建築職員制ニ依ル職員
八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員
八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員
八ノ四 地方學校營繕職員制ニ依ル職員
八ノ五 地方移植民職員制ニ依ル職員
九 防疫職員制ニ依ル職員
十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

十二 廳府縣衞生職員制ニ依ル職員
十三 癩療養所職員制ニ依ル職員
十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員
十四ノ二 職業紹介所官制及昭和十三年勅令第四百五十一號ニ依ル職員
十四ノ三 廳府縣健康保險職員制ニ依ル職員
十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衞生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、建築、衞生、產業、物產、檢查、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衞生、教育、社會事業、海事又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員
十八 南洋郡島地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木其ノ他ノ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 內閣印刷局醫及內閣印刷局藥劑師
一ノ二 保險院保健技師
二 造幣醫、造幣藥劑師、專賣醫及專賣藥劑師
三 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
四 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
四ノ二 遞信醫及遞信藥劑師
五 鐵道醫及鐵道藥劑師
六 朝鮮ニ於ケル專賣醫、專賣藥劑師、鐵道醫、鐵道藥劑師及鐵道看護長
七 臺灣ニ於ケル警察醫、檢疫員、檢疫醫員及河川監視
八 關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 航空基地タル期間ノ開始後航空基地ニ到リタル者ニ付テハ其ノ地ニ到著シタル月ヨリ加算ス
二 航空基地タル期間內ニ航空基地ヲ離レタル者ニ付テハ其ノ地ヲ離レタル月迄加算ス

恩給法第三十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 航空基地タル期間ノ開始後航空基地ニ到リタル者ニ付テハ其ノ地ニ到著シタル月ヨリ加算ス
二 航空基地タル期間內ニ航空基地ヲ離レタル者ニ付テハ其ノ地ヲ離レタル月迄加算ス

恩給法第三十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

前四項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎭戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外公務員鎭戍ノ爲內國ヲ出發シタルトキハ內國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎭戍ノ終了後直ニ內國ニ歸還シタルトキハ內國歸著ノ月迄加算ス

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一 同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半
二 同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月
三 前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條 邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ

就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ

二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乘員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乘員トシテノ現業勤務

三 炭坑內切羽ニ於ケル連續的現業勤務

四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全タ航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第十九條ノ二 恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ亙ルトハ其ノ期間カ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

第二十條 恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 年功ニ因ル加俸

二 府縣知事ノ指定地加俸

三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教授ノ職務俸

四 第一號ニ揭クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸

五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勢加俸

第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條 恩給法第四十八條第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一 マラリア(黑水熱ヲ含ム)

二 猩紅熱

二ノ二 痘瘡

三 コレラ

四 脚氣(戰地ニ限ル)

五 發疹チフス

六 腸チフス

七 パラチフス

八 ペスト

九 回歸熱

十 赤痢

十一 流行性腦脊髓膜炎

十二 流行性感冒

十三 肺ヂストマ病

十四 トリパノゾーム病

十五 ワイルス氏病

十六 カラアザール

十七 黃熱

第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 戰地ニ於テ動務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二 暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊番人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三 外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ動務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四 航空機ニ乘シ航空動務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航動務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脫獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷痍疾病

六 職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

七 急流其ノ他生命ノ危險ヲ感スヘキ事情ノ下ニ於ケル潛水勤務ニ因ル傷痍疾病

第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ八項トス

特別項症

一 常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ

二 重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ

三 兩眼ノ視力カ明暗ヲ辨別シ得サルモノ

四 身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一 複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ

三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ

四 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ毀シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　大動脈瘤、鎖骨下動脈瘤、總腸動脈瘤、無名動脈瘤又ハ腸骨動脈瘤ヲ發シタルモノ

六　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

七　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

二　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ著シク妨クルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

五　泌尿器ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

六　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノニシテ脫落症狀ノ著シカラサルモノ

七　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

八　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ毀シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　大動脈瘤、鎖骨下動脈瘤、總腸動脈瘤、無名動脈瘤又ハ腸骨動脈瘤ヲ發シタルモノ

六　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

七　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

二　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ著シク妨クルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

五　泌尿器ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

六　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノニシテ脫落症狀ノ著シカラサルモノ

六　一側足關節カ直角位ニ於テ强剛シタルモノ

七　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十四條ノ二　恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳全ク聾シタルモノ

三　一側拇指ノ機能ヲ毀シタルモノ

四　一側示指乃至小指ノ機能ヲ毀シタルモノ

五　一側總趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

第二款症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

四　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第三款症

一　一側示指ノ機能ヲ毀シタルモノ

二　一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

三　一側第一趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

四　一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一　一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

二　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ〇・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側中指ノ機能ヲ毀シタルモノ

四　一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側第二趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

六　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三　恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ掲クル所得ハ右地域內ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

一　恩給受給者カ右地域內ニ有スル資產又ハ營業ヨリ生スル所得

二　右地域內ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等

ノ性質ヲ有スル給與

恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セス

第二十四條ノ四 前條第一項第二號ニ掲クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得稅法ニ規定スル個人ノ第三種所得ト同範圍トス

所得稅法第十八條第一號乃至第五號ニ掲クル所得ハ之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外ス

第二十四條ノ五 恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得稅法第十四條第一項、第二項及臨時租稅增徵法第七條竝所得稅法施行規則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六 恩給外ノ所得ハ每年稅務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

稅務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ結了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中稅務署長トアルハ臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル稅務官署トス

第二十四條ノ七 恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ之ヲ更正ス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八 年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ南洋群島ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有シ又ハ同地域ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルモ同地域内ニ有スル資產若ハ營業ヨリ生スル所得ヲ得ルモノハ每年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ裁定官廳カ内閣恩給局長ナルトキハ南洋廳ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ裁定官廳カ地方長官ナル場合ニ於テ恩給受給者カ裁定官廳ノ管轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ直接ニ裁定官廳ニ、然ラサルトキハ住所若ハ居所又ハ資產若ハ營業ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セシテ第二十四條ノ三第一項但書第二號ニ規定スル所得ヲ得ルモノハ每年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ直接ニ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九 陸軍戰時給與規則第六條第一項若ハ第二項又ハ海軍戰時給與規則第二條第一項ノ規定ニ依ル給與ヲ受クル者ニハ恩給法第五十九條第六項ノ規定ニ依リ同條ノ納金ヲ免除ス但シ全ク戰地外ニ在ル月ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

内閣總理大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ納金ノ免除ヲ受クル者ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條ノ十 恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

一 初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ以テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

二 月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

三 休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラルヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラルヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十一 恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一 一級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給カ有スル割合ヲ乘シタルモノ（圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム）ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未滿ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ

二 同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス

三 轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額カ前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セサルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二 國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス

二 前號ニ掲ケサル陸軍ノ士官候補生（見習士官タル者ヲ除ク）及軍醫候補生、陸軍豫科士官學校生徒、陸軍經理學校豫科生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒、海軍航空豫備學生竝海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

三 前二號ニ掲ケサル陸海軍諸生徒、海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ノ階等ハ兵ニ準ス

第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、

奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

二　準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條　警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等ト ス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條　特遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條　恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　師範學校

二　高等女學校

三　專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）

四　中學校又ハ前二號ニ揭クル學校ニ準スヘキ學校

五　實業補習學校教員養成所

六　朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ揭クルモノニ準スヘキモノ

七　在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ揭クル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二　恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年內ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條　恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四目トス

第一目症

一　身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルコトアルモノ

二　一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ

三　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ一メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

四　一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ

五　一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側第三趾乃至第五趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第二目症

一　一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三目症

一　一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ

二　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ三メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四目症

一　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　前目ノ各症ニ次ク症ヲ貽シタルモノ

第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第三十一條ノ二　恩給法第六十六條ノ二ノ規定ニ依リ返還セシムヘキ額ハ傷病賜金ノ額ノ六十四分ノ一ニ相當スル金額ニ傷病賜金ヲ受ケタル月ヨリ起算シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルニ至リタル月迄ノ月數ト四十八月トノ差月數ヲ乘シタル金額トシ增加恩給又ハ傷病年金ノ支給ニ際シ其ノ返還額ニ達スル迄支給額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シテ返還セシム

第三十一條ノ三　恩給法第七十五條第二項但書ニ規定スル遺族ノ員數ニ依ル加給ニ付テハ左ノ區分ニ依ル

一　同一戶籍內ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合又ハ二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於テハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ裁定官廳ニ於テ最初ニ請求ヲ受理シタル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス但シ前段ノ場合ニ在リテハ各ノ扶助料ヲ受クル者全員ノ連署ヲ以テ、後段ノ場合ニ在リテハ之ヲ併セ受クル者ヨリ裁定官廳ニ於テ後ニ請求ヲ受理シタル一ノ扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タラシムルコトヲ請求シタルトキハ後扶助料ノ加給額カ最初ノ扶助料ノ加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ改定請求アリタル月ノ翌月ヨリ加給額ヲ改定ス

二　前號ニ揭クル各ノ扶助料ノ請求ヲ裁定官廳ニ於テ同日ニ受理シタルトキハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ加給額ノ最多額ト爲ル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス

前項第一號但書ノ規定ニ依リ加給額ヲ改定シタル後ニ於テ請求セラレタル扶助料アル場合ニ於テハ其ノ扶助料ニ加給ヲ爲ストキ其ノ加給額カ既ニ改定セラレタル加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ更ニ改定ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項第一號但書ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條　削除

第三十五條　廢官、廢職、廢廳、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條　恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場

合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

三　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

四　執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條　恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號
一明治二十七年勅令第五十二號
一明治二十七年勅令第八十一號
一明治二十七年勅令第百四十五號
一明治三十一年勅令第二百四十四號
一明治三十二年勅令第二百一號
一明治三十三年勅令第百七十三號
一明治三十三年勅令第四百四號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令
一明治三十四年勅令第百五十號
一明治三十五年勅令第百五十七號
一明治四十一年勅令第百三十七號
一明治四十三年勅令第百二十七號
一明治四十四年勅令第七十號
一大正六年勅令第二百四十一號
一大正六年勅令第二百四十二號
一大正九年勅令第三百二十三號
一明治十八年第十五號達官吏恩給令附則
一明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例
一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條　第十條各號ニ揭クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ揭クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附則　（大正十三年勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乘員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則　（大正十三年勅令第四百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第十號ニ揭クル待遇職員ト看做ス

附則　（大正十五年勅令第二百四十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

部判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ揭クル文官ト看做ス

附則　（昭和八年勅令第二百三十六號）

第一條　本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分、第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ八竝ニ附則第三條及第四條ノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　昭和八年九月三十日以前ニ給與事由ノ生ジタル普通恩給及扶助料ノ分擔ニ付テハ第四條第一項ノ規定ノ改正ニ拘ラズ其ノ分擔請求額ハ仍改正前ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三條　昭和八年法律第五十號附則（以下單ニ改正法律附則ト稱ス）第七條但書ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

第四條　改正法律附則第九條ニ規定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ル

一　轉官職ニ依リ新官職ニ付前俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セラルルニ至ルトキハ之ヲ昇給ト看做ス

二　本俸ト之ニ準ズベキモノトヲ併セ受クル場合ニ於テ其ノ一ニ付昇給又ハ增額アリタルトキハ改正法律附則第九條ノ規定ニ依リ本俸及之ニ準ズベキモノノ總テニ付同法第五十九條ノ改正規定ヲ適用ス

三　俸給ノ法令ニ依ル增額アル場合ニ於テ其ノ增額分ガ恩給法第五十九條ノ規定ノ改正ニ依リ增加シ又ハ新ニ納付スベキニ至リタル額以上ナルトキニ限リ俸給ハ增額セラレタルモノトシ之ニ及バザルトキハ其ノ增額ナカリシモノトシテ取扱フ

第五條　改正法律附則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ改定普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改定ニヨリ增額スル金額ノ一年分ト同額トス控除ハ控除金額ノ總額ガ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

第六條　改正法律附則第十七條以下ノ規定ニ依リ同法施行後仍削除セラレタル恩給法第九十九條ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ同條ニ規定スル教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ揭グル者ヲ謂フ

一　官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二　文部省官吏、

三　教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東局又ハ南洋廳ノ官吏

四　臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五　教育事務從事ノ從前ノ區、統監府、關東都督府又ハ關東廳ノ官吏

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

附　則（昭和八年勅令第三百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十一年勅令第六十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前龍井村、局子街又ハ海龍ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十一年勅令第百七十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前農安又ハマサトランニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十二年勅令第四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前赤峰ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十二年勅令第三百八十二號）

第一條　本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　南滿洲鐵道附屬地ニ在勤シタル關東州ニ於ケル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ノ裁定ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條　第三十一條ノ三ノ規定ハ昭和十三年法律第五十六號（以下改正法律ト稱ス）附則第二條ノ規定ニ依リテ增給セラルベキ扶助料中恩給法第七十五條第二項但書ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スルガ爲增給セラルベキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

第四條　改正法律附則第二條ノ規定ニ依リテ爲ス增加恩給又ハ扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待タズシテ之ヲ爲ス但シ恩給法第七十五條第二項ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スル扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待チテ之ヲ爲ス

第五條　改正法律附則第三條ノ規定ニ依リ第七項ノ增加恩給ヲ給セラルベキ者ガ本令施行ノ際從前ノ第一款ノ傷病年金ト普通恩給トヲ併給セラルル者ナル場合ニ於テハ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ以テ增加恩給第七項ノ年額トス

第六條　改正法律附則第五條ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ改正規定ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

附　則（昭和十四年勅令第六百七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正前ノ恩給法施行令第十條第十四條ノ三ニ規定スル傷兵保護院官制第十七條ノ規定ニ依ル職員ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

第一號表　削除

第二號表

（一）三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

內地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州	南洋群島	其ノ他
北海道 國後郡 安渡移矢崎 松前郡 小島 幌筵島 占守島 石川縣 鳳至郡 舳倉島 長崎縣 南松浦郡 女島 鹿兒島縣 川邊郡 草垣島	京畿道 富川郡 木德島、德積島 忠淸南道 瑞山郡 愛島、飛烈島 全羅南道 務安郡 七發島、紅島、小黑山島 莞島郡 魚龍島、港門島 珍島郡 竹島、下鳥島 慶尙北道 鬱陵島 黃海道 長淵郡 小靑島 松禾郡	臺北州 基隆郡 基隆街ノ內彰佳嶼 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中淸水、牛鬪及松羅溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部、蘇澳庄ノ內大南澳、文山郡 街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、カウボウ、ラハウ及阿玉駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹州 新竹郡 大溪街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、合脚坪、ウライ、ヨウハブン、シッケイ、カウボウ、ラハウ及斷崖駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹東街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラパイ、	散江郡 敷香郡 名好村 宇安別 富內郡 富內村大字富內字 愛郎 留多加郡 西能登呂岬	樺太國 北樺太 ペトロパウロフスク ニコライウスク 富錦 佳木斯 三姓 北安鎭 海拉爾 璦琿 春草溝 百草溝 依蘭溝 間島頭道溝 樺甸 通化 宜昌 沙市 重慶 成都 古蒙 外蒙 新疆 河內		

西	平安南道遠軍平安北道
島	熙川郡鐵山郡大和島
朔州郡	昌城郡
碧潼郡	山城郡
楚山郡	昌城郡
渭原郡	昌城郡
江界郡	慈城郡
厚昌郡	慈城郡
咸鏡南道	新興郡
長津郡	豐山郡
甲山郡	水山郡
咸鏡北道	茂山郡
會寧郡	鍾城郡
穩城郡	慶源郡
慶興郡	右ニ掲クル地ト雖ニ屬スル地方鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク

メカラン、内横屏山、錦屏山、ラハウ、シラック、メホマン、シバジイ、マイバライ、シイガオ及大隘駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

大湖郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠及細道邦駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

新高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部

能高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部

臺南州 嘉義郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部

高雄州 旗山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部

屏東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、サンテイモン、バクヒヨウ、マカザヤン及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

潮州郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スポン、歸化門、炭頭、内獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

恒春郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部

東港郡

西	新嘉坡
島	檳榔嶼
馬來半島	海峽植民地
	馬來聯合諸國
	柔佛
	新嘉坡
	檳榔嶼
	馬六甲
	馬來聯合諸國
	彭亨
	霹靂
	雪蘭莪
	森美蘭
	馬來非聯合諸國
	吉打
	吉蘭丹
	丁加奴
	玻璃市
	北婆羅洲
	沙巴
	砂拉越
	布魯乃
	英屬印度
	孟買
	加爾各答
	馬德里
	錫蘭
	科倫坡
	蘇門答臘
	巴東
	巨港
	占卑
	明古連
	楠榜
	爪哇
	萬隆
	三寶壟
	泗水
	日惹
	梭羅
	馬辰
	望加錫
	巴厘
	龍目
	帝汶
	荷屬印度
	亞齊
	北蘇門答臘
	西蘇門答臘
	廖內
	邦加
	勿里洞
	西婆羅洲
	東南婆羅洲
	東婆羅洲
	西里伯
	北西里伯
	中西里伯
	南西里伯
	東里伯
	摩鹿加
	北摩鹿加
	中摩鹿加
	南摩鹿加
	小巽他
	西小巽他
	中小巽他
	東小巽他
	新幾內
	荷屬新幾內
	英屬新幾內
	德屬新幾內
	菲律賓
	呂宋
	民都洛
	巴拉灣
	米沙鄢
	班乃
	伊羅伊羅
	卡皮茲
	阿克蘭
	安提克
	西內格羅
	東內格羅
	保和
	宿霧
	內格羅
	錫基約
	蘇祿
	巴西蘭
	三寶顏
	北拉瑙
	南拉瑙
	北哥羅巴多
	南哥羅巴多
	蘇祿
	巴拉灣
	巴拉灣本島
	卡拉棉
	巴拉灣
	卡加延
	伊沙貝拉
	努埃華埃西哈
	阿巴里
	邦板牙
	塔拉克
	班加西蘭
	拉烏尼翁
	碧瑤
	阿巴
	本格特
	蘇比克
	林加延
	達古班
	邦阿西蘭
	呂宋
	北伊羅戈斯
	南伊羅戈斯
	拉烏尼翁
	本格特
	碧瑤
	阿巴

沖繩縣	大東島、伊江島、久米島、宮古島列島、八重山列島
平安南道	曾津高崎、住用村大字西仲間、龜津村大字龜津、天津宇龍津、阿木名大字平土野、同村大字西阿木名、榮名原、東久宇村大字嘉方村大字皆津、鐵縣
平安北道	孟山郡、德川郡、陽德郡
義州郡（義州面ヲ除ク）	
龜城郡（龜城面ヲ除ク）	
泰川郡（泰川面ヲ除ク）	
雲山郡	
寧邊郡	
博川郡	
定州郡	
宣川郡（大和島ヲ除ク）	
鐵山郡	
龍川郡	
江原道	
麟蹄郡	
三陟郡	
蔚珍郡	
旌善郡	
平昌郡	
寧越郡	
伊川郡	
咸鏡南道	
北青郡	
利原郡	
端川郡	
咸鏡北道	
鏡城郡	
明川郡	
吉州郡（城津）	

沖繩縣	街庄ヲ置カサル舊地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合腦坪、ウライ、ヨウハブン、シッケイ、カウボウ、ラハウ、斷崖駐在警察官管轄區域
平安南道	街庄ヲ置カサル舊地中內灣、カラパイ、メカラン、內橫屏山、錦屏山、ラハウ、マイシラク、メホマン、シバジイ、ラハライ、シイガオ、大隘駐在警察官管轄區域
平安北道	街庄ヲ置カサル舊地全部
義州郡（義州面ヲ除ク）	
龜城郡（龜城面ヲ除ク）	
泰川郡（泰川面ヲ除ク）	
雲山郡	
寧邊郡	
博川郡	
定州郡	
宣川郡（大和島ヲ除ク）	
鐵山郡	
龍川郡	
江原道	
麟蹄郡	
三陟郡	
蔚珍郡	
旌善郡	
平昌郡	
寧越郡	
伊川郡	
咸鏡南道	
北青郡	
利原郡	
端川郡	
咸鏡北道	
鏡城郡	
明川郡	
吉州郡（城津）	

臺東廳	街庄ヲ置カサル舊地中內灣、大溪口、大坡池、大南、大武、大竹、大鳥、小葉田、山里、山頂、山腰、太麻里、太平、卑南、加走灣、北絲、北里、北和、北界、北源、古莊、史前、四維、尚武、成功、成廣澳、竹湖、竹餘、利嘉、利稻、初鹿、岩灣、東河、東興、知本、金崙、長濱、南王、南田、南興、南竹湖、泰源、海端、海瑞、高原、高溪、崁頂、崇德、富山、富里、富源、寶桑、新生、新武呂、新興、新開園、溪口、溪南、溪東、溪洲、溪底、溪流、溪湖、溪賀、溪頂、溪畔、瑞源、瑞豐、瑞穗、福原、福興、福德、福鹿、鳳林、鳳信、鳳崗、鳳義、鳳榮、鳳德、鳳頭、鳳鳴、鳳林、鳳山、鳳仁、鳳文、鳳光、鳳和、鳳美、鳳珠、鳳田、鳳翔、鳳翠、鳳興、鳳雅、鳳凰、鳳園、鳳榕、鳳德、鳳翼、鳳鸞、鳳麟、鳳鶴、鳳蘭、鳳蘆、鳳蘇、鳳蘭、鳳蘆、鳳蘇、鳳蘭、鳳蘆、鳳蘇

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリア（黒水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
鹿兒島縣大島郡、沖繩縣	デング熱
朝鮮	猩紅熱、痘瘡、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、赤痢、腓ジストマ病
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、デング熱
南洋諸島	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱、デング熱
滿洲	ペスト、猩紅熱、痘瘡、腸チフス、パラチフス、赤痢
關東州	マラリア、猩紅熱、痘瘡、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢、カラアザール
滿支（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）那	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
露領（薩哈璉州ヲ含ム）亞伯利亞	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢
比律賓諸島	マラリア、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
蘭領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
アフガニスタン	マラリア、コレラ、ペスト、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢、カラアザール
ペルシア	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黃熱
西弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黃熱

第四號表

在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額十割ニ相當スル金額

第五號表

從前ノ法令 ＼ 階等														
恩給法	將官及相當官	佐尉官及相當官			准士官	下士官								
		高等官			判任官									
		親任官	一等	二等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等		
軍人恩給法	將官及相當官	佐尉官及相當官			准士官	下士官								
		高等官			判任官									
		親任官	一等	二等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等		
	將官及相當官	佐尉官及相當官			下士官	兵卒								
		高等官			判任官									
		親任官	一等	二等	一等	二等	三等	四等	海軍一等卒	陸軍上等兵	陸軍一等兵	海軍一等兵	陸軍二等兵	海軍二等兵
									陸軍一等卒	陸軍二等兵	海軍二等兵	海軍三等兵	陸軍三等兵	海軍四等兵
									陸軍二等卒	陸軍三等兵	海軍三等兵			
									陸軍三等卒					

| | | |

| 海軍退隱令 | 第十八條 | | |

陸軍技術本部	毒性化合物ノ研究室 燐ノ加工作業室 芳香系硝化物ノ研究及加工作業室 硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室
陸軍科學研究所	毒性化合物ノ研究室 毒性化合物ノ製造及加工作業室 硝化作業室 混酸作業室 無煙藥「ニトログリセリン」ノ製造及加工作業室 無煙藥擔和作業室 無煙藥壓延作業室 無煙藥乾燥作業室 鉛ノ熔融作業室 燐ノ加工作業室 芳香系硝化物ノ研究及作業室 「ニトログリセリン」入爆藥ノ研究及作業室 硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室 雷汞及塩化物ノ研究及作業室
陸軍醫學校 陸軍獸醫學校	毒性化合物ノ研究室
海軍火藥廠	毒性化合物ノ研究及製造作業室 性質未知ノ爆藥類ノ研究室 硝酸製造及回收作業室 硫酸製造作業室 混酸作業室 「ニトログリセリン」ノ製造及作業室 綿火藥乾燥及取扱作業室 混和及擔和作業室 壓出作業室 爆藥鑄造壓搾作業室 無煙藥乾燥室 鉛ノ熔融作業室

海軍工廠	起爆劑ノ研究及製造作業室 燐ノ加工作業室 鉛ノ熔融作業室 呉工廠鎭ヶ首發射場ニ於ケル爆藥ノ實驗研究ノ場所 呉工廠砲愼實驗部ニ於ケル性質未知ノ爆藥ノ研究場所
海軍技術研究所	毒性化合物ノ研究及作業室
海軍軍醫學校	毒性化合物ノ研究室
製鐵所	硫酸製造作業室 硫酸「アンモニア」製造作業室 酸洗作業室 瓦斯發生爐室 骸炭爐室
工業試驗所	毒性化合物ノ研究室
臨時窒素研究所	毒性化合物ノ研究室

二　危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

廳名	作業ノ場所及種類
東京及大阪衞生試驗所 廳府縣立衞生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「コレラ」、腸「チフス」、「パラチフス」及赤痢ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業
廳府縣ノ港務部、臨時海港檢疫所及衞生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業

陸軍軍醫學校	防疫部ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究竝豫防液ノ製造、細菌學教室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢及狂犬病ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業
陸軍病院	病理試驗室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業 細菌室ニ於ケル狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究竝診斷液又ハ豫防液ノ製造
海軍軍醫學校 海軍病院 要港部病院	防疫學教室又ハ病的檢査室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究、檢菌作業竝豫防液ノ製造 實驗室、作業室又ハ附屬醫院ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究、檢菌作業竝豫防液ノ製造
傳染病研究所	
獸疫調査所	實驗室又ハ作業室ニ於ケル狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究竝診斷液又ハ豫防液ノ製造

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給給與規則

大正十二年八月二十二日
勅令第三百六十九號

改正　昭和八年第二三七號、第三一一號、一二年第三六〇號、一三年第三八三號

廢恩給給與規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書、增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歷書

二　戸籍抄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ）

增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改正スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前

昭和十四年五月一日
閣令第九號

恩給法施行令第二十四條ノ九第一項ノ規定ニ依リ納金ノ免除ヲ受クル者ノ範圍ヲ同條第二項ノ規定ニ依リ左ノ通制限ス

支那事變ニ關シ戰地ニ出張中ノ者、出征中俸給又ハ給料ノ留守宅渡ヲ受クル者等戰地ニ在ルモ戰地外ニ於テ俸給又ハ給料ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ受クル者ニ付テハ其ノ戰地外ニ於テ支拂ヲ受クル俸給又ハ給料ニ對スル納金ヲ免除セズ

恩給給與規則

二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　恩給法第五十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歴書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ內閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員（公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條　恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戶籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條　恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ル外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

三　請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條ノ二　恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受クル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ增減ニ因リ加給スヘキ額ニ增減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書ニ改定ヲ受クヘキ扶助料證書及戶籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書ニ前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戶籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條　恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ル外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戶籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項

第十六條　恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十七條　恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條　恩給法第八十一條ニ規定スル一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歴書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十三條ノ二　裁定官廳ハ恩給請求書類ニ依リ證明セントスル事實ノ一部ニ付十分ナル心證ヲ得サル場合ニ於テ爭ナキ部分ノ事實ノミヲ以テスルモ尙恩給ヲ給與シ得ルコトヲ認メタルトキハ之ヲ他ノ部分ト切

離シ先ツ其ノ事實ノミニ基キ恩給ノ裁定ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ別種ノ恩給ヲ給與スルニ至ルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ爭アル事實ニ付立證ヲ得タルトキハ前裁定ヲ訂正スヘシ

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ每年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

恩給給與規則

第四章　異動通知

第三十條　普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ繼故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十四條　第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ屆出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第三十四條ノ二　恩給法施行令第一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ提出スル戸籍謄本又ハ戸籍抄本及證明書ハ之ヲ提出スヘキ月又ハ其ノ前月現在ニ於ケル受恩給者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノタルコトヲ要ス

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十六條 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

恩給ヲ受クル者カ恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル狀況ニ在ル場合ニ於テハ裁定官廳ハ本人ノ申請ニ依リ之ニ其ノ證書ノ再交付ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ其支給廳ヲ經由スヘシ

第六章 具申及裁決

第三十九條 恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一 具申者ノ氏名、年齡及住所
二 對手者タル行政廳
三 具申ノ趣旨及理由

第四十一條 具申カ內閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條 內閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條 裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附 則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給給與細則

大正十二年十月一日
閣令第七號

改正 昭和八年第二號、十二年第一號、第四號、十三年第二號

國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則左ノ通定ム

恩給給與細則

第一條 恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一 本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二 陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三 在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條 裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式(第一號乃至第十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第四條 恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條 本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書(第十六號乃至第二十一號書式)ヲ作リ證據書類ヲ添附シ內閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條 內閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條 恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ內閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條 內閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

第九條 恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙樣式(第二十二號又ハ第二十三號ノ書式)ニ準シ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條 恩給給與規則第三十六條第一項ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式(第二十四號書式)ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス

二 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十條ノ二 恩給給與規則第三十六條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式(第二十四號書式ノ二)ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類及證書郵送料(郵便切手十四錢)ヲ添附シ

之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

一　申請者本人ノ最近ノ寫眞

二　恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル事由ヲ詳記シタル願書

前項ノ申請書ニハ現住所ノ警察官署、領事官其ノ他申請者カ本人タルコトヲ知レル官公署ヨリ本人タルコトノ奥書證明ヲ受クヘシ

第一項第一號ノ寫眞ハ申請書ニ貼附シ前項ノ奥書證明ヲ爲ス官公署ノ割印ヲ受クヘシ

第十一條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ内閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙樣式（第二十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第十二條ノ二　恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

明治二十四年閣令第二號

明治二十四年法律第四號施行規則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

明治三十四年閣令第一號

明治三十五年法律第四十五號施行手續

明治三十九年法律第二十號施行手續

明治四十三年閣令第九號

明治四十四年法律第五十九號施行手續

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十九年法律第十三號施行規則

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

大正十一年閣令第五號

別紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日　（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

氏　名印

年　月　日

内閣恩給局長　氏　名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

普通恩給
增加恩給請求書

年　月　日　（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

氏　名印

年　月　日

内閣恩給局長　氏　名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

傷病年金請求書

年　月　日　（官職）ヲ退職（シ　年　月　日役ヲ免セラレ）候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

氏　名印

年　月　日

内閣恩給局長　氏　名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

增加恩給請求書

年　月　日　（官職）ヲ退職致候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所
年月日
氏　名印

内閣恩給局長　氏　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式ノ二

傷病年金請求書

年月日　（官職）ヲ退職（シ　年月日　役ヲ免セラレ）候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金給與相成度證據書類相添（請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
年月日
氏　名印

内閣恩給局長　氏　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添（請求候也

本籍地
現住所
年月日
氏　名印

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添（請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所
年月日
氏　名印

内閣恩給局長　氏　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式ノ二

扶助料改定請求書

一、扶助料證書記號番號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額

前記扶助料受給中ノ處遺族員數增加減少致候ニ付年額ヲ改定相成度證據書類相添（請求候也

年月日
本籍地
現住所
請求者　氏　名印

内閣恩給局長　氏　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式ノ三

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料　(イ)　扶助料證書記號番號
　　(ロ)　證書ノ日附
　　(ハ)　扶助料年額
第二ノ扶助料　(イ)　扶助料證書記號番號
　　(ロ)　證書ノ日附
　　(ハ)　扶助料年額

(第三ノ扶助料以下右ニ準ス)

前記扶助料中第　ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添(請求候也

年　月　日

本籍地
現住所
請求者　第一ノ扶助料受給者　氏　　名印
現住所
請求者　第二ノ扶助料受給者　氏　　名印
(第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス)

內閣恩給局長　氏　　名殿
改定扶助料ノ支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

一時恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添(請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添(請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名　氏　　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添(請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷病賜金請求書

年　月　日(官職)ヲ退職(シ　年　月　日　役ヲ免セラレ)候ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添(請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日

第十號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　　名

右者犯罪ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者　氏　　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

年　月　日　　申請者　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式ノ二

再審査請求書

年　月　日退職（シ　年　月　日　役ヲ免セラレタル）ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十三號書式

履歴書

退職當時ノ官職名

年　月　日生　　氏　　名印

年　月　日	記事	官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日　　（退職當時ノ所屬廳ノ長）

官職氏　　名印

備考

一履歷書ハ二通提出スヘシ

一學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ

一退職ノ事由ヲ明記スヘシ

一退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日　午前(後)　時　地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

現認者　氏　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日ヨリ(何)ニ從事中　年　月　日(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ從事シ　月　日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

所屬長　氏　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十六號書式

前證書記號番號	
前在職年	
前職又ハ前階等	
前恩給年額	
傷病年金ニ關スル事項	

普通恩給金額	退職年月日	年　月　日	居住地地方廳名							
	退職ノ事由									
	在職年數									
	退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢	支給郵便局名							
	退職當時ノ階等									
	恩給年額算出率	百五十分ノ三百分ノ								
	恩給法第六十條ノ二ニ依ル一時恩給基礎俸給月額	圓　錢								
	恩給法第四條ノ二ニ依ル普通恩給停止年額及支給年額	控除前ノ算出額	圓　錢	差引支給年額	圓　錢	(イ)自　年　月至　年　月停止年額(普通恩給六分ノ一)　圓　錢	(ロ)自　年　月至　年　月停止年額(普通恩給八分ノ一)　圓　錢			
		控除額	圓　錢							

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏　名

年　月　日生

內閣恩給局長　氏　名　殿

官職氏　名印

在職年內譯

實在職年	加算年	除算年
始期	終期	事由	年月數	始期	終期	事由	年月數	始期	終期	事由	年月數
自　年　月　日	至　年　月　日			自　年　月　日	至　年　月　日			自　年　月　日	至　年　月　日		
合計　年　月				合計　年　月				合計　年　月			

總計　年　月

退職前ノ俸給年額內譯

本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積
自　年　月　日　至　年　月　日				
自　年　月　日　至　年　月　日				
自　年　月　日　至　年　月　日				
自　年　月　日　至　年　月　日				
合計				

加俸	退職前一年內ノ本俸總額
自　年　月　日　至　年　月　日	
自　年　月　日　至　年　月　日	
自　年　月　日　至　年　月　日	
自　年　月　日　至　年　月　日	
合計	

第十六號書式ノ二

前證書記號番號	
前在職年	
前職又ハ前階等	
前恩給年額	

普通恩給金額計算書	退職年月日	年　月　日	居住地方廳名	譯	自　年　月　日　至　年　月　日
	退職ノ事由		郵便局名		退職前一年內ノ加俸總額
	在職年數		支給局名		
	退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢			
	退職當時ノ階等				
	恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ			
	傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日			
	公務傷病ノ原因				
	右ノ日ヨリ五年經過後ノ階等				
	症狀等差	第　項			

備考　傷病年金ニ關スル事項欄ニハ請求者カ傷病年金ヲ併給セラルル者ナルトキハ其ノ證書ノ記號番號ヲ、傷病年金ヲ請求中ノ者ナルトキハ請求ノ年月日ヲ、傷病年金ヲ請求スル見込ノ者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏名

年月日生

恩給法第六十四條ノ二ニ依ル普通恩給算出ノ際ノ控除	控除前ノ算出額	圓　錢	初期給額	年　月分ノ　箇月分
	差月數	月		
	一時恩給基礎俸月額	圓　錢		
	控除額	圓　錢		
普通恩給金額	普通恩給金	圓　錢	毎期給額	金　圓　錢
	增加恩給金	圓　錢		

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長　氏　名　殿

官職氏名印

在職年	實在職年	加算年	除算年
始終期	年月數	始終期事由	年月數
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			
合計　年　月		合計　年　月	

退職前ノ俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積
自　年　月　日 至　年　月　日				
自　年　月　日 至　年　月　日				
自　年　月　日 至　年　月　日				
合計　年　月	本俸總額			

總計　年　月	本俸
退職前一年内	加俸

第十六號書式ノ三

前傷病年金證書	記號番號	年額	恩給法第六十條ノ二ノ六ノ二ノ事項	恩給法施行令第三十二條ノ二ノ差月數	返還總額	每期控除額
普通恩給ニ關スル事項	傷病賜金ノ金額					

給俸	年額	自　年　月　日 至　年　月　日
内譯	退職前一年内ノ加俸總額	自　年　月　日 至　年　月　日
	退職前一年内ノ本俸總額	自　年　月　日 至　年　月　日

傷病年金金額計算書

退職年月日	年　月　日	居住地	支給郵便局名	局
兵役免除年月日	年　月　日	地方廳名		
退職（兵役免除）ノ事由				
退職當時ノ階等				
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日			
公務傷病ノ原因				
症狀等差	第　款			

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長　氏　名　殿

官職氏名印

退職當時ノ官職名	氏名	傷病年金金額	金　圓

第十七號書式

一時恩給金額計算書

| | | |

第十八號書式

恩給證書記號番號	改定前ノ普通恩給ニ關スル事項		
	在職年	官職名又ハ階等	年額

扶助料金額計算書

| 公務員ニ關スル事項 | | |

第十八號書式ノ二

恩給證書記號番號	改定前ノ普通恩給ニ關スル事項	
	在職年	官職名又ハ階等
	年	

扶助料金額計算書

居住地地方廳名

支給郵便局名

公務員ニ關スル事項

退職（死亡）年月日　年月日

退職ノ事由又ハ死因

在職年數

退職（死亡）前ノ俸給年額　本俸　圓　錢　加俸　圓　錢　合計　圓　錢

退職（死亡）當時ノ階等

恩給年額算出率　百五十分ノ　三百分ノ

恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除　一時恩給差額俸給月額　圓　錢

恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除　差月數　月

恩給控除前ノ算出額　圓　錢

普通恩給年額　圓　控除額　圓　錢

扶助料金額

每期給額	金	圓	錢	年額	金	圓

恩給法第七十五條第一項ノ事項

普通恩給十分ノ五　右ノ割　金　圓　金　圓　錢

恩給法第七十五條第一項但書第二號ノ事項

遺族員數

最初ノ扶助料　證書記號番號氏名

後ノ扶助料　證書記號番號氏名

恩給法第十三條第一項第一號及第二號ノ場合ノ本文ノ事項

加給額　金　圓

恩給法施行令第一條第一項第一號ノ本文ノ場合

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

內閣恩給局長　氏　名　殿

在職年內譯

年	月	日	至	年	月	日	始終期	年月數

合計　年　月

總計　年　月

實在職年

年	月	日	至	年	月	日	始終期	事由	年月數

合計　年　月

加除算年

年	月	日	至	年	月	日	始終期	事由	年月數

合計　年　月

官職氏名印

公務員ノ續柄　氏名　年月日生　年月ヨリ給與

初期支給額　年月分ノ給額　金　圓　錢　箇月分

退職俸給ノ前年額

退職前一年ノ期間	自	年	月	日	至	年	月	日
本俸								
加俸								
退職前一年內ノ本俸總額								

總計　年　月

退職前一年內ノ加俸總額								
本俸年（月）額								
月數ト月額トノ積								

內譯

退職俸給ノ前年額	自	年	月	日	至	年	月	日
退職前一年ノ期間	自	年	月	日	至	年	月	日
本俸								
加俸								
退職前一年內ノ本俸總額								

總計　年　月

退職前一年內ノ加俸總額								
本俸年（月）額								
月數ト月額トノ積								

第十八號書式ノ三

恩給證書記號番號	改定前ノ普通恩給ニ關スル事項		
	在職年	官職名又ハ階等	年額

扶助料金額計算書

| 公務員ニ關スル事項 | | |

第十八號書式ノ四

恩給證書記號番號	官職名又ハ階等	在職年	改定前ノ普通恩給ニ關スル事項
			年額

扶助料金額計算書

居住地 地方廳名

支給郵便局名

公務員ニ關スル事項

退職(死亡)年月日　年月日

退職ノ事由又ハ死因

在職年數

退職(死亡)前ノ俸給年額　本俸　圓　錢　加俸　圓　錢　合計　圓　錢

退職(死亡)當時ノ階等

恩給年額算出率　百五十分ノ三百分ノ

恩給法第六十四條ノ二ニ依ル差月數

恩給控除前ノ算出額　圓　錢

一時恩給基礎俸給月額　圓　錢

普通恩給年額　圓

控除ニ關スル控除額　圓　錢

扶助料金額

| 年額 | 每期給額 | 恩給法第七十一條第一項ノ事項 | | 恩給法第十五條第一項ノ事項 | 恩給法施行令第三十一條ノ三第一項第五號ノ二ノ場合ノ扶助料 | | |

第十九號書式

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

事項			
公務員ニ關スル事項	退職（死亡）年月日	年　月　日	公務員トノ續柄
	退職ノ事由又ハ死因		
	在職年數		
	退職（死亡）前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢	
	退職（死亡）當時ノ階等		
	恩給證書記號番號	第　號	一時扶助料金額
	普通恩給年額	金　圓	扶助料年額　金　圓

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長　氏名殿

始期	年月數	在職年	内	算	除算	始期	年月數	支給郵便局名	
終期	事由		譯			終期	事由		
		實在職年	加算	年					局

第二十號書式

恩給法第八十二條ノ金額計算書
一時扶助料

| | | |

第二十一號書式

傷病賜金金額計算書		支給郵便局名	局
退職年月日	年月日		
兵役免除年月日	年月日		
退職（兵役免除）ノ事由			
退職當時ノ階等			
傷病ニ罹リタル年月日	年月日		
公務傷病ノ原因			
症狀等差	第　目	傷病賜金額	金　圓

退職當時ノ官職名
氏　名

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

官職氏名印

內閣恩給局長　氏名　殿

第二十二號書式

年月日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

裁判所

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年月日
判決確定年月日	年月日
刑期起算年月日	年月日
刑期滿了年月日	年月日

第二十三號書式

年月日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

裁判所

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年月日
判決確定年月日	年月日
刑期起算年月日	年月日
刑期滿了年月日	年月日
執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年月日

第二十四號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）

一恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年月日

退職當時ノ官職名又ハ
公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏名印

內閣恩給局長　氏名　殿

支給郵便局　〇〇郵便局

第二十四號書式ノ二

恩給證書再交付申請書

一、恩給證書ノ記號番號

一、恩給證書ノ日附

一、恩給金額

右恩給證書別紙願末書ノ通呈示ノ用ニ供スルコト困難ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏　名印

内閣恩給局長　氏名　殿

支給郵便局　○○郵便局

第二十五號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書記號番號

一、受給者住所氏名

一、受給權調査期月　昭和　年　月

備考　用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半折大トスルコト

●昭和七年法律第十三號（恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律）

昭和七年六月十八日
法律第十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

第一條　昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依レバ受クベカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ增給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月一日以降勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ新ニ制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ準用ス

第二條　恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ從前ノ例ニ依リ普通恩給ト其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受クル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ俸給ヲ超過スル差額ダケ普通恩給ヲ停止スル場合ニ於ケル其ノ退職當時ノ俸給ハ本法施行後ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル時期迄昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依ル其ノ俸給ニ相當スル俸給トス

前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第二百三號ヲ以テ昭和七年八月一日ヨリ施行）

●昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年七月三十日
勅令第二百四號

改正　昭和八年第二四七號

朕昭和七年法律第十三號施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

昭和七年法律第十三號施行令

第一條　昭和七年法律第十三號第一條第一項ノ規定ニ依リ增額シ又ハ追給スベキ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一　昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シ俸給ヲ減額セラレタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキ及前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第二百三號ヲ以テ昭和七年八月一日ヨリ施行）

二　昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキハ

（イ）本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ガ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

（ロ）本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ（イ）ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

（ハ）本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ

定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ノ額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トス但シ本俸及本俸ニ準ズベキ俸給ノ改正前ノ俸給額ニ還元セラレタルモノノ合算額ハ改正前ノ俸給規程所定ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

退職又ハ死亡當時ノ本俸ト本俸ニ準ズベキ俸給トノ合算額ガ第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ノ規定ニ依リ改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ニ還元セラルベキ最低額ニ達セザルモノナルトキハ第一項第二號(ハ)ノ規定ニ依ル算出ヲ行ハズ

第二條 昭和六年六月二十二日以降官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ又ハ二以上ノ官職ニ在職中死亡シタル者前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ本俸ニ付テハ退職又ハ死亡當時ノ各官職ノ俸給ニ互ニ他ノ俸給ノ額ヲ合算シ各合算額ニ付假ニ前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ規定スル算出方法ニ依リ減俸前ノ俸給額ニ還元シ各還元額ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ノ比率ニ依リテ按分シ其ノ各俸給ニ屬スベキモノヲ以テ改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ各官職ノ俸給額トス

第三條 昭和七年法律第十三號第二條ノ規定ニ依リ退職當時ノ俸給ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ依ル相當俸給ニ換算スルニハ左ノ各號ニ依ル

一 大正十二年十月一日以降昭和六年六月又ハ七月ノ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ノ適用前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給ハ

(イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ) 本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乘ジタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ノ額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乘ジタル金額トス

二 大正十二年九月三十日以前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給ハ大正十二年十月一日恩給法ニ依リ更正增額セラレタル恩給ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額トシ前號ノ規定ニ依リテ算出シタル金額トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第四條 昭和六年六月二十二日前官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ其ノ合算額ヲ基礎トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ノ退職當時ノ本俸ノ額ノ換算ニ付テハ昭和六年勅令第百四十三號ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ昭和六年六月一日以降同月二十二日前退職シタル者ニ付テハ其ノ俸給ハ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給トス

第五條 減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ於テ改正當時ノ在職者ニ付經過的ニ級俸定額ノ減率ヨリ低キ減率ニ依ル俸給ヲ給スル規定アリタル官職ガ退職當時ノ官職タリシ者ニシテ同規程施行ノ當時在職シタルモノニ關シテハ引續キ在職スル間ニ限リ前二條ノ規定ニ依ル金額ニ依ラズシテ其ノ退職當時ノ俸給額ニ付定メラレタル低キ減率ニ依ル俸給ヲ以テ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給トス

第六條 第三條ノ規定ニ拘ラズ退職當時ノ俸給(二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ合算額)ノ年額千百四十圓以下ナルトキハ其ノ減額ヲ行ハズ千百四十圓ヲ超エ千二百圓以下ナルトキハ之ヲ千百四十圓トス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第七條 本令中退職又ハ死亡當時ノ俸給ノ換算ニ關スル規定ハ退職又ハ死亡前一年內ノ各俸給ノ換算ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年法律第十三號恩給更正手續

昭和七年七月三十日
閣令第一號

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給又ハ追給スベキ恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號恩給更正手續

第一條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ金額ヲ更正シ從前ノ證書ニ代ヘ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル裁定通知書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ追給スベキ金額ヲ記載シタル追給裁定通知書ヲ發行ス

第二條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給又ハ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年八月一日以降裁定セラルルモノニ付テハ裁定ニ當リ直ニ更正年額ヲ表示シタル證書又ハ更正額ヲ表示シタル裁定通知書ヲ發行ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ發行スル新證書又ハ追給裁定通知書ノ交付

ヲ受ケントスル者ハ交付請求書(別記樣式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第四條 前條ノ交付請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第五條 內閣恩給局ニ於テ第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ之ヲ貯金局ニ送付シ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シテハ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第六條 內閣恩給局ニ於テ第一條ノ追給裁定通知書ヲ發行シタルトキハ貯金局ヲ經テ之ヲ交付請求書ヲ差出シタル者ニ送付ス

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

(交付請求書樣式)

(裏面)

交付請求書

番號	定裁	號番	記ハ	書又	知通	證號	名	月	郵名	考
氏										
生			年				給局			
支便										
備										

昭和七年法律第十三號ニ依ル更正證書及請求候也

追給裁定通知書

現住地

受給者

氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

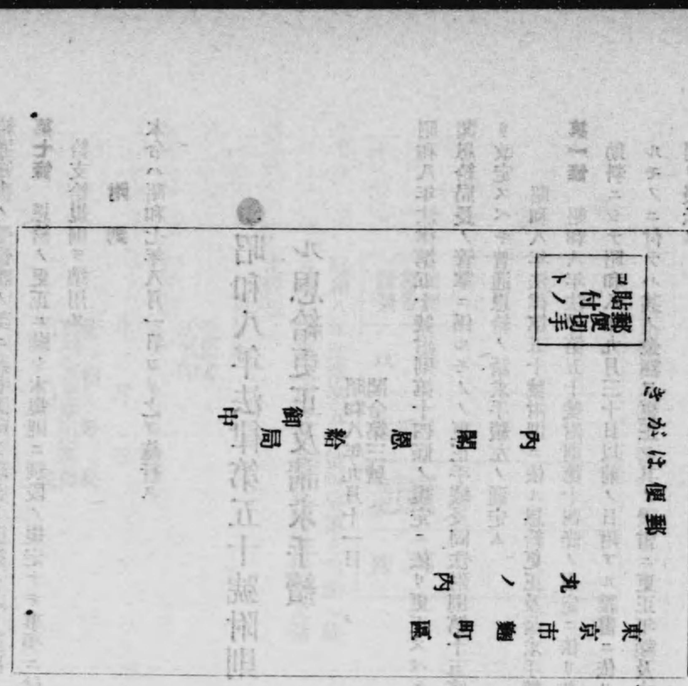
年 月 日

警察(署長

警察官吏派出所員

町村長

(裏面)



●昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

昭和七年七月三十日
遞信省令第二十六號

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

第一條 年金タル恩給受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

第二條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ之ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ引換ヘ之ヲ保管ス

第三條 貯金局ニ於テ前條ニ依リ新證書ヲ保管シタルトキハ其ノ保管證書ハ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條 受給者新證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ既ニ支給期月ヲ經過シタル給與金ニ對スル更正增加額ハ支給期月ニ拘ハラズ一般ノ例ニ依リ之ガ拂渡ヲ支給郵便局ニ請求スベシ

第五條 一時金タル恩給ノ追給ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第六條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ追給ヲ受ケントスルトキハ追給裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支

昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スベシ

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和八年九月十一日
閣令第三號

昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ更正スベキ扶助料中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第十五條ノ規定ニ依リ改定スベキ普通恩給ノ請求手續左ノ通定ム

昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

第一條 昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ加給スベキ扶助料ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ其ノ金額ヲ更正シ其ノ證書ニ更正年額及之ヲ給スル期間ヲ表示ス

第二條 扶助料證書ニ前條ノ表示ヲ受ケントスル者ハ更正額表示請求書（別記第一號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ扶助料證書ト共ニ之ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局ヨリ前項ノ更正額表示請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第三條 前條ノ請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第四條 內閣恩給局ニ於テ第一條ノ更正額ノ表示ヲ爲シタルトキハ恩給證書ハ之ヲ受給權者ニ送付ス

第二條第一項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第五條 昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ普通恩給ノ改定ヲ請求スル者ハ恩給裁興規則第一條及第二條ノ規定ニ依ルノ外改定請求書（別記第二號樣式）ヲ內閣恩給局長ニ提出スベシ

（別記）

第一號樣式

（裏面）

更正額表示請求書

記號書番證號	名	鄰名	考
	月	給局	
氏	年	支便	
生		備	

昭和八年法律第五十號附則第十四條ニ依ル更正額表示相成度扶助料證書添附及請求候也

現住地
受給者
氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

年　月　日

警察署長
警察官吏派出所員
町村長

昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

（表面）

東京市麹町區內閣恩給局

第二號樣式

改定請求書

一、普通恩給證書記號番號
一、普通恩給證書日附
一、普通恩給年額

昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ前記普通恩給ヲ文官普通恩給ニ改定相成度此段請求候也

本籍地
現住地
文官退職年月日
請求者 氏 名印

年 月 日

内閣恩給局長 氏 名 殿
支給郵便局 ○○郵便局

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和十三年六月一日
閣令第三號

昭和十三年法律第五十六號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ更正スベキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ給シ又ハ改定スベキ恩給ノ請求手續左ノ通定ム

第一條 昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和十三年法律第五十六號(以下改正法律ト稱ス)附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ恩給法第七十五條第二項及昭和十三年勅令第三百八十二號(以下改正勅令ト稱ス)附則第五條ニ規定スルモノヲ除クノ外受給權者ノ請求ヲ待タズ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票(別記第一號樣式)ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條 改正法律附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年四月一日以後裁定スベキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條 支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ待タズ内閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條 第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書(別記第二號樣式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ内閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條 前條ノ交付請求書提出後住所ヲ變更シタルトキハ其ノ新住所地ノ警察官署若ハ領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ

第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スベシ

第九條 昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ昭和十五年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條 改正勅令附則第三條ニ依リテ準用セラルル同令第三十一條ノ三第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定請求ヲ爲サントスル者ハ扶助料改定請求書(別記第三號樣式)ニ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戸籍謄本、前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セントスル扶助料ノ證書ヲ添附シテ内閣恩給局長ニ差出スベシ

改正勅令附則第四條但書ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給部分ニ對スル更正ノ請求ヲ爲サントスル者ハ更正請求書(別記第四號樣式)ニ公務員ノ死亡又ハ前扶助料權者ノ失權ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戸籍謄本ヲ添附シテ内閣恩給局長ニ差出スベシ

第十一條 改正法律附則第三條及改正勅令附則第五條ノ規定ニ該當スル者ニハ受給權者ノ請求ヲ待タズ假ニ增加恩給第七項ノ年額ヲ表示シタル支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ增加恩給第七項ノ恩給額ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ支給ヲ受クル者改正勅令附則第五條ノ規定ニ依リ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ增加恩給第七項ノ年額トシテ受ケントスルトキハ更正請求書(別記第五號樣式)ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ

第十二條 改正法律附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ給シ又ハ改定スベキ場合ニ於テハ受給權者ノ請求ヲ待チテ之ヲ更正ス

改正法律附則第六條ノ規定ニ依リ扶助料ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ

改正法律附則第七條ノ規定ニ依リ恩給ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外北海道廳長官ヲ經テ恩給ノ請求書又ハ改定請求書(別記第六號樣式)ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ

第十三條 恩給ノ更正及請求ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

（別記）

第一號樣式

扶助料證書記號番號					
更正證書記號番號					
更正年額					
同上一期額					
氏名					
生年月日					

扶助料更正支給額以渡月ヨリ昭和十三年七月

（局）
恩給（内）閣

注意 (一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スベシ

(二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スベキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スベシ

第二號樣式

（裏面）

書號				
證番號				
現記號				
書號				
證番號				
更正記號				
氏名				
郵便局名				
支給局				
備考				

請求書

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル更正證書及請求候也

現住所
受給者氏名印

交付

右現住者タルコトヲ證明ス

昭和 年 月 日

警察（署長 分署長）
警察官吏派出所員
町村長

（表面）

扶助料證書記號番號						
更正證書記號番號						
更正年額						
同上一期額						
氏名						
生年月日						

扶助料更正支給額以渡月ヨリ昭和十三年七月

恩給（局）
閣（内）

注意 (一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スベシ

(二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スベキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スベシ

第三號樣式

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料 (イ)扶助料證書記號番號

(ロ)證書ノ日附

(ハ)扶助料年額

第二ノ扶助料 (イ)扶助料證書記號番號

(ロ)證書ノ日附

(ハ)扶助料年額

（第三ノ扶助料以下右ニ準ズ）

前記扶助料中第 ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

本籍地
現住所
請求者 第一ノ扶助料受給者 氏 名㊞

現住所
請求者 第二ノ扶助料受給者 氏 名㊞

（第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ズ）

内閣恩給局長 氏 名 殿

改定扶助料ノ支給郵便局 ○○郵便局

第四號樣式

更正請求書

一、扶助料證書記號番號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額

昭和十三年法律第五十六號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額更正相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地
現住所
年　月　日　請求者　氏　名㊞

內閣恩給局長　氏　名　殿
支給郵便局　〇〇郵便局

第五號樣式

更正請求書

一、傷病年金證書記號番號
一、傷病年金證書ノ日附
一、傷病年金年額
一、普通恩給證書記號番號
一、普通恩給證書ノ日附
一、普通恩給年額

第六號樣式

改定請求書

一、公務員退職年月日
一、證書記號番號
一、證書ノ日附
一、普通恩給又ハ扶助料年額

昭和十三年法律第五十六號附則第七條ノ規定ニ依リ前記普通恩給扶助料年額改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地
現住所
年　月　日　請求者　氏　名㊞

內閣恩給局長　氏　名　殿
支給郵便局　〇〇郵便局

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

昭和十三年六月一日
遞信省令第四十八號

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

第一條　貯金局ニ於テ昭和十三年閣令第三號其ノ他昭和十三年法律第五十六號附則ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ增加恩給、傷病年金及扶助料ノ受給者ニ對シ支給額票ヲ交付セントスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ恩給證書ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ支給額票ノ貼附ヲ請求スベシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付ス

第三條　支給額票ノ交付ヲ受クベキ受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準ジ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作製シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スベシ

第五條　年金恩給支給規則第十條ニ依リ貯金局ニ寄託中ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國境警備及理蕃ノ加算ニ關スル件

大正十二年十二月二十七日
內閣告示第二號

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

國境警備及理蕃ノ加算ニ關スル件

大正十二年十月一日以後朝鮮ニ於ケル左ノ地ニ於テ國境警備ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル國境警備加算ヲ爲ス

道名	郡名	府名
平安北道	新義州府、龍山郡、義州郡、朔州郡、昌城郡、碧潼郡、楚山郡、渭原郡、江界郡、慈城郡、厚昌郡	
咸鏡南道	三水郡、甲山郡	
咸鏡北道	茂山郡、會寧郡、鍾城郡、穩城郡、慶源郡、慶興郡	

大正十二年十月一日以後臺灣ニ於ケル左ノ地ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理蕃加算ヲ爲ス

新竹								
竹南		竹東						
曙司令	道下	高ヽシメヽヤホヽ 樽ヽカヽロヽン	柘榴高					
鹿萩令	大竹	松瀬	楠老盞					
山岡	林隆戸下		朝馬ソタヽイヤカ 日鞍					
泉日向	東	松シヽイガオ	楢武ヽチヽシヽボ 山神					
中雪間見	路ホ	小ラバスンヨワ 林	錦タバ 路ホ					
モ幸ギリ原	井シバジイ上	田村盞	ソサスラツカヤチ					
北坑	笠イマイバラ野	庄子	見ハ 返ガ					
二本松山	林龍横							
象鼻	場	鹿						
上ノ島	第三龍山横	大國	加里前山	鹿湖				
黒	第四龍山横	東龍	石ピリン	底溪				
萩見	第一高地	舟尾	マメー					
坂晴	地	尾						
丁	合	シボツケ	マカンソンイ					
宇	流	ケ	ウライ					

大溪								
萩角	四	バツトルイ	カウボー					
	クサンブナオウ							
バロソン山	ラハ	ルツオ						
ビヤサン	佐泰	タカサン	斷崖					
太満山	カラソ澤	停車場	ンウイラホロ					
タイヤフン	ハカワ	壷原	ラ溪	境				
ウラオ	タマン	一ガオガンソン	カギラン溪	萩				
	埜	李嶺	山溪					
	トンマリコワ	ソンフ	メー	舟	第	見	萩	
		高地	尾			晴	坂	
		合	シボツケ	マカンソンイ			丁	
		流	ケ	溪			宇	

臺北								
蕃薯		羅東						
水源	山椒	フルツタキヨー	ンタビヤハ					
二水	クバボー	ゴオン	茂ヨーヨッ	邊				
山腳	キヤンソン	ベレフンソン	リヨヘンソン	スキンソンノー	梅			
部	クムヤウ	大濁	月水桃	檀				
鞍	ワキカバヤイボンラ	雅望	合音	洋	流			
	ビヤハウ	銅山	矢龍	楠				
		クバボー	ヨーヨッ	子				
		ビヤハウ	リヨヘンソン					
		キンソンヤン						
砲								
臺								

州廳名	郡役所名	羅東								
駐在所		斷崖	路田源タボー							
		巒部ヤウナン	ピンマルモア	邊丸	太平山					
		フムロア	米カラツブ	羅	烏帽子山					
		ピヤナン	日小ーセン	南林	餃ンカウラ路					
		右	シキクン	湘土						
		岸	ノ上場							
警察官駐在所		突地	池ノ十字路							
		稜疊	端							
			山ボンソン							
			シキクン							
分遣所		大鬼	西油	川草	島					
		落澤	羅山	端村	田					
		出山	會大	梅中						
		會								
		坂脚	見庭	津田						
		バゴソン	道崎	地臺						

| | | |

| 名 | 高雄屏東 | | |

| 臺東廳 | | |

	山里	川向	ソワサル	タウサイ
				シラックク

昭和七年六月六日
内閣告示第三號

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル理審加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

理審加算ニ關スル件

昭和五年十月二十七日以後臺灣臺中州能高郡「イナゴ」、「櫻」、「バーラン」、「霧社」及「ロードフ」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理審ニ從事スル公務員、昭和六年三月一日以後同郡「スーク」、「ブカサン」、「富士見」、「松原」、「見晴」及「梅木」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理審ニ從事スル公務員竝ニ昭和五年十月二十七日ヨリ同年十二月二十日ニ至ル期間ニ同郡「獅子頭」及「眉渓」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理審ニ從事シタル公務員ニ對シ夫恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理審加算ヲ爲ス

●外國擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和三年五月二十八日
内閣告示第一號

恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

外國擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和二年三月二十一日ヨリ同年四月七日ニ至ル期間ニ支那揚子江沿岸ニ於テ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務加算ヲ爲ス

●從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和四年六月二十七日
内閣告示第三號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和三年四月十九日ヨリ七月十日ニ至ル期間ニ滿洲ヲ除クノ外支那及其ノ沿海ニ在リテ今次ノ支那事件ニ從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號及同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又內國ニ在リテ直接支那派遣部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號及同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和三年五月十八日ヨリ八月三十日ニ至ル期間ニ滿洲ニ在リテ又ハ同年七月十一日ヨリ十一月十五日ニ至ル期間ニ滿洲ヲ除クノ外支那及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和八年十二月七日
内閣告示第五號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和七年二月七日ニ至ル期間及昭和七年六月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ト渤海トヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和十一年三月十九日
内閣告示第二號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和七年二月七日ニ至ル期間及昭和七年六月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ト渤海トヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和十三年六月十六日
内閣告示第四號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和七年二月七日ニ至ル期間及昭和七年六月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ト渤海トヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和十三年六月十六日
内閣告示第四號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベ

キ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

第一　滿洲事件

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和十年十二月一日以後ハ之ヲ撫遠、同江、綏濱、蘿北、湯原、東興、木蘭、通河、鳳山、樺川、富錦、饒河、寶清、依蘭、方正、延壽、賓、勃利、虎林、密山、東寧、穆稜、撫松、濛江、金川、柳河、輯安、興京、桓仁、通化及寬甸ノ各縣トシ此ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ハ昭和十年十一月三十日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和十一年內閣告示第二號及昭和十二年內閣告示第六號ヲ以テ告示シタル恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲ス外國擾亂地勤務ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

第二　支那事變

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十二年七月七日以後前項ノ地域以外ノ地域ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第一項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

第一　滿洲事件

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和十年十二月一日以後ハ之ヲ撫遠、同江、綏濱、蘿北、湯原、東興、木蘭、通河、鳳山、樺川、富錦、饒河、寶清、依蘭、方正、延壽、賓、勃利、虎林、密山、東寧、穆稜、撫松、濛江、金川、柳河、興京、桓仁、通化、輯安及寬甸ノ各縣トシ此ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ハ昭和十年十一月三十日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和十一年內閣告示第二號及昭和十二年內閣告示第六號ヲ以テ告示シタル恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲ス外國擾亂地勤務ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

第二　支那事變

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十二年七月七日以後前項ノ地域以外ノ地域ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ、同日ヨリ昭和十二年十二月十九日ニ至ル期間承德ト赤峰トヲ連ヌル線以西ノ滿洲國熱河省ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

第一項、第二項及前項前段ノ加算ノ終期ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

●擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和十二年十一月五日
內閣告示第六號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河（此ノ地域中昭和十一年內閣告示第二號ニ依リ外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲サルル部分ニ付テハ右加算ヲ爲サルル期間其ノ部分ヲ除ク）ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

大正十二年十月九日
勅令第四百三十九號

改正　昭和二年第三五八號、七年第三七五號、九年第三三號

朕恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務、大藏大臣副署）

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

第一條　內閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スヘキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各經濟毎ニ仕譯書二通ヲ作成シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依ル恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ送付スヘシ

內閣恩給局長前項ノ分擔請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ同年九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ニ於テ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ交付スヘシ

第六條　前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第七條　國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ分擔請求ヲ受クヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ其ノ裁定ノ要項ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ國庫ニ對スル通知ハ內閣恩給局長ニ宛テ之ヲ爲スモノトス

第八條　內閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ恩給ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

內閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ本給スヘキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ當該經濟ニ通知スヘシ

第九條　前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更ヲ生シタル場

合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シタル場合亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ履歷書ノ添附ヲ要セス

第十條 文官、下士官以上ノ軍人、教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受クル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ當該支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタル者ハ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ作成シ毎翌月五日迄ニ之ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ但シ歲入徵收官ノ指定シタル者ニ在リテハ前項ノ控除額ニ仕譯書ヲ添附シ毎翌月十日迄ニ之ヲ歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條 教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リテ控除シタル納金ハ當該經濟ノ定ムル所ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 轉任、轉職、待命、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給(又ハ給料)ノ返納ヲ要スルトキハ前三條ノ規定ニ依リ控除シタル納金額ヲ算出シタル場合ニ適用セラレタル割合ヲ其ノ過渡俸給(又ハ給料)額ニ乘シタル金額ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第十五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十六條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

一 官吏遺族扶助法納金收入規則

一 府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

一 明治四十五年勅令第七十一號

本令施行前內閣總理大臣以外ノ官廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存續スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滯ナク裁定ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付之ヲ準用ス

附則 (昭和七年勅令第三百七十五號)

本令ハ昭和七年四月一日以後ノ裁定ニ係ル恩給ニ付之ヲ適用ス但シ昭和七年四月一日以後昭和八年一月三十一日迄ノ裁定ニ係ル增加恩給及一時金タル恩給ニ付履歷書ヲ添付スベキ場合ニ於テハ其ノ謄本ヲ添附スルヲ以テ足ル

大正十二年十二月七日
內閣訓令第一號

改正 昭和七年第一號、八年第一號

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式左ノ通定ム

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第七條ノ規定ニ依ル普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料竝ニ第八條ノ規定ニ依ル恩給裁定ノ要項通知ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

附則 (昭和八年內閣訓令第一號)

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

裁定要項通知書

退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名		退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名							
證書又ハ裁定通知書記號番號	第號		證書又ハ裁定通知書記號番號	第號							
恩給金額總在職年	年月	圓	恩給金額總在職年	年月	圓						
勤務廳	事項	在職年數	勤務廳	事項	在職年數						
	退職(死亡)前一年內俸給年額及最終俸給年額			退職(死亡)前一年內俸給年額及最終俸給年額							

退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名	證書又ハ裁定通知書記號番號	第號
恩給金額總在職年數	年 圓 月	在職年數	退職(死亡)前一年内俸給年額及最終俸給年額
勤務廳	事項		

右通知ス

年 月 日

廳

廳 御中

●恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

大正十二年十二月七日
大藏省令第三十號

改正 昭和二年第四〇號、九年第五號

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則左ノ通相定ム

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

第一條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第三條及第五條ニ規定スル恩給金額分擔請求書及仕譯書ハ前項ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書及仕譯書ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第二條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條第一項ノ出納官吏國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ收入官吏トシテ總テ其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第三條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル仕譯書ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第三條ノ二 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項但書ノ規定ニ依リ出納官吏ニ納付セシムルコトヲ指定シ得ルハ當該俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス官吏又ハ吏員カ歲入徵收官ノ所在地又ハ最寄ニ在勤スル場合ニシテ歲入徵收官在勤廳ニ在ル歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ之カ納付ヲ爲サシムル場合ニ限ル

第四條 收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第五條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十三條ノ規定ニ依リ過渡俸給(又ハ給料)ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ過渡俸給(又ハ給料)額

中ヨリ返納者ニ於テ控除スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ付返納告知書ヲ發シ返納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十四條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫ニ納付スヘキ金額ニ付テハ歲入徵收官ハ其ノ計算ヲ明ニシタル適宜ノ報告書ヲ徵シ一般歲入金徵收ノ例ニ依リ當該經濟ニ對シ納入告知書ヲ發シ日本銀行ニ納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ノ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添附シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規定ニ依ル收入金ハ大藏省主管トシ諸收入收納取扱規程ニ依リ之カ整理ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序
大正十一年大藏省訓令第二十三號

第一號書式

恩給金額分擔請求通知書

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

一金

右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添附及通知候也

年 月 日

内閣恩給局長

何廳官職氏名宛

第二號書式

何廳 恩給金額分擔請求仕譯書(普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料) 何年分

摘要	金額	備考
	圓	
文官		
何某外何名ノ分	0	
軍人		
何某外何名ノ分	0	
警察監獄職員		
何某外何名ノ分	0	
教育職員		
何某外何名ノ分	0	
待遇職員		
何某外何名ノ分	0	
合計	0	

備考 仕譯書ハ普通恩給、一時恩給又ハ一時扶助料ニ分チ之ヲ記載スヘシ

●昭和八年大藏省令第二十五號

（一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給還等ニ關スル取扱規程ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程）

昭和八年九月二十七日
大藏省令第二十五號

一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給還等ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

第一條 國庫負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合（以下單ニ再就職者ト稱ス）恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ之ガ取扱ヲ爲スベシ

第二條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給ノ返還ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ就職ト同時ニ勤務廳（又ハ之ニ相當スルモノ）ヲ經由シ本屬廳（以下單ニ就職官廳ト稱ス）ニ對シ履歷書二通其ノ他一時恩給金額ヲ確證スベキ書類ヲ添ヘ一時恩給返還請書ヲ提出スベシ

前項ノ一時恩給返還請書ニハ一時又ハ分割返還ノ意思表示ヲ爲スベシ

第三條 前條ノ書類ノ提出ヲ受ケタル就職官廳ハ其ノ履歷書一通ニ再就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添ヘ直ニ再就職者ノ受ケタル一時恩給ノ裁定官廳ニ送付スベシ

前項ノ書類ヲ受ケタル裁定官廳ハ之ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還額ヲ算定シ就職官廳ニ通知スベシ

第四條 就職官廳ハ第二條ノ規定ニ依リ再就職者ヨリ提出ニ係ル書類ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還金額ヲ算定シ再就職者ノ就職ノ翌月ヨリ一年以內ニ適宜納付期限ヲ定メ一般會計歲入トシ徵收スベシ但シ再就職者一時恩給ノ返還ヲ完了セズシテ退職シ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズベキ場合ニ在リテハ其ノ殘額ニ付テハ其ノ際一時ニ之ヲ徵收スベシ

前項但書ノ規定ハ再就職者死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ遺族扶助料ヲ受クル者ニ付之ヲ適用ス

第五條 就職官廳ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル一時恩給返還金額ニシテ第三條第二項ノ規定ニ依リ裁定官廳ヨリノ通知ニ依ル金額ト相違アリタル場合ニ於テハ之ガ更正ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ更正ヲ爲シタル爲徵收金額ニ不足アルトキハ之ヲ追徵シ過納アルトキハ其ノ基ク所ノ計算書ヲ添ヘ還付ノ手續ヲ採ルベシ但シ還付ヲ要スベキ金額ヲ其ノ後ノ一時恩給返還金ニ充當スルコトヲ妨ゲズ

第六條 再就職者一時恩給返還ヲ完了セズシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ就職官廳以外ノ官廳ニ勤務スルニ至リタルトキハ其ノ本屬廳（以下轉官官廳ト稱ス）ニ於テ其ノ殘額ニ付第四條、第五條ノ規定ニ準ジ徵收又ハ還付ノ手續ヲ爲スベシ

第七條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ基キ一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ生ゼザル場合ニ於テハ就職官廳又ハ轉官官廳ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スベシ

就職官廳又ハ轉官官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ審査ノ上還付スベキモノト認メタルトキハ一時恩給返還額ヲ證スベキ書類及履歷書寫其ノ他ノ證明書類ヲ添ヘ之ガ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スベシ

第八條 就職官廳又ハ轉官官廳ハ一時恩給返還整理簿ヲ備ヘ各返還者毎ニ一時恩給返還金額、分納期間、分納金額、納期日（場所）、領收濟額、領收未濟額其ノ他一時恩給返還ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ

第九條 國庫以外ノ經濟負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第五條及第八條ヲ準用ス但シ第二條中本屬廳及第三條乃至第五條竝第八條中就職官廳トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟、第四條中一般會計歲入トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟ノ歲入トス

前項ノ規定ニ依リ再就職者一時恩給ヲ負擔シタル經濟ニ第二條ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テハ其ノ就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添付スルコトヲ要ス

●宮內省恩給令

大正十二年九月二十八日
皇室令第十六號

改正　昭和八年第一號、十三年第七號

朕宮內省恩給令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

宮內省恩給令

第一章　總則

第一條 宮內職員タリシ者及其ノ遺族ハ本令ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受

ダルノ權利ヲ有ス

第二條　本令ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　年金タル恩給ノ年額及一時金タル恩給ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　第五條ノ期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ防碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ期間滿了セス

期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ期間滿了セス

期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ期間內ニ權限アル官署ニ到達セサルモ之ヲ期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　宮內職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

宮內職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本令ニ依ル恩給ト恩給法ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第八條ノ二　恩給ヲ受クルノ權利ハ一身ニ專屬ス但シ恩給金庫法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供シ又ハ第十條及第十一條ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

恩給ヲ受クルノ權利ヲ讓渡ノ目的ニ供シタルトキハ恩給ノ支給ヲ停止ス

前項但書ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ擔保ノ目的ニ供シタルトキ亦同シ

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ前項第二號ノ規定ニ拘ラス其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給又ハ傷病年金ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ之ヲ當該宮內職員ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

前項ノ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

恩給權者死亡當時家族ナリシトキハ第一項ノ相續人ハ其ノ死亡ノ當時ニ之ト同一戶籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第十二條　削除

第十三條　恩給ヲ受クルノ權利ハ宮內大臣之ヲ裁定ス

第十四條　前條ノ裁定ニ不服アル者ハ裁定ノ日ヨリ六月內ニ宮內大臣ニ具申シ其ノ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第十五條　再審査ノ請求アリタルトキハ宮內大臣ハ宮內省恩給審査會ニ諮問シ之ヲ裁決ス

宮內省恩給審査會ニ關スル規程ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

宮內省恩給令

第十六條　本令ニ於テ公務員、公務員ニ準スヘキ者、文官、軍人、警察監獄職員及準軍人トハ恩給法ノ規定ニ依リ之ニ相當スルモノヲ謂フ

第二章　宮內職員

第一節　通則

第十七條　本令ニ於テ宮內職員トハ宮內官竝皇宮警手及勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ指定スル其ノ他ノ待遇職員ヲ謂フ但シ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

女官ノ恩給ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　本令ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮內官ニ在リテハ任官

二　待遇職員ニ在リテハ任命

俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル者俸給ヲ受クル宮內職員ト爲リタルトキハ之ヲ就職ト看做ス本令ノ適用ヲ受ケサル職員ヨリ宮內職員ト爲リタルトキ亦同シ

第十九條　本令ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮內官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官

二　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

宮內職員俸給ヲ受ケサル職員又ハ本令ノ適用ヲ受ケサル職員ト爲リタルトキハ之ヲ退職ト看做ス皇宮警手他ノ宮內職員ト爲リ又ハ他ノ宮內職員皇宮警手ト爲リタルトキ亦同シ

第二十條　在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ

一時恩給又ハ第五十八條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ當該月ニ付テハ恩給ノ計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第二十一條 宮内職員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

前項ノ規定ハ宮内職員公務員タル官職ヲ併有スル場合ニ於ケル年數計算ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 皇宮警手ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十二年ニ達スル迄ハ他ノ宮内職員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十三條 宮内職員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一 戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二 戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ宮内職員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第二十四條 宮内職員戰地又ハ外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第二十五條 前三條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第二十六條ノ二 休職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亙ルモノハ勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ付之ヲ半減ス

第二十七條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第三十五條ノ規定ニ依リ宮内職員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 宮内職員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五 宮内職員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六 公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテノ在職年月數ニシテ恩給法ニ依リ除算セラルヘキモノ

第二十八條 恩給法ニ依リ公務員ノ恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ公務員及公務員ニ準スヘキ者トシテノ在職年月數ハ之ヲ宮内職員トシテノ在職年ニ通算ス

第二十條乃至第二十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ軍人、警察監獄職員又ハ準軍人トシテノ在職年ハ皇宮警手トシテノ在職年ト看做ス

第二十九條 本令ニ於テ俸給トハ本俸年功加俸及精勤加俸ヲ謂フ

宮内職員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ其ノ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第三十條 宮内職員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

宮内省恩給令

第三十一條 宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖宮内省恩給審査會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ其ノ者ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第三十一條ノ二 宮内職員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅裁ヲ經テ規定スル傷病ノ程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅裁ヲ經テ規定スル傷病ノ程度ニ達シ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ傷病年金ヲ給シ又ハ現ニ受クル傷病年金ヲ傷病ノ程度ニ相應スル傷病年金ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖宮内省恩給審査會ニ於テ傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌

月ヨリ之ニ相當ノ傷病年金ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキト雖其ノ者ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル傷病年金ヲ給セス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第三十二條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　職地勤務又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

二　宮内職員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ宮内省恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十三條　公務傷病ノ原因ヲ分チテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度、傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度及待遇職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十四條　宮内大臣ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十六條　廢官、廢職、廢廳又ハ官職名改定ノ際其ノ改廢ニ係リ官職ニ在ル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ之ヲ勤續ト看做ス

宮内職員退職シ即日又ハ翌日他ノ宮内職員ニ就職シタルトキハ後ノ宮内職員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

第三十七條　宮内職員ニシテ其ノ退職ノ當時仍公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ在職スルモノニ付テハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス但シ下士以下ノ軍人トシテ在職スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ稅度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第三十一條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第十九條第二項後段及第二十條第三項ノ規定ノ適用ニ依リ恩給ヲ給セラルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號ノ規定ニ拘ラス其ノ恩給ヲ改定ス

第三十九條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第三十九條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第四十一條　前四條ノ規定ニ依リ恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條　普通恩給ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル普通恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル普通恩給ハ之ヲ給セス但シ恩給法ニ依ル宮内職員トシテノ在職年ヲ通算セラレサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ハ之ヲ給セス

第四十三條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　宮内職員又ハ公務員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ又ハ下士以下ノ軍人トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス

三　之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝恩給ノ停止方法ニ關シテハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第二節　恩給金額

第四十四條　宮內職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ宮內大臣又ハ內大臣トシテ退官スルモノニ付テハ宮內大臣又ハ內大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第三十一條、第三十八條第一項第二號若ハ第三號、第三十九條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十五條　皇宮警手在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ皇宮警手トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第三十一條、第三十八條第一項第二號若ハ第三號又ハ第三十九條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十四條第三項ノ規定ハ皇宮警手ノ普通恩給ニ付之ヲ準用ス

第四十五條ノ二　一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職手數一年ヲ二月ニ換算シタル月數內ニ召集其ノ他ノ强制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ定ムル時期ニ於テ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ恩給法ニ依ル一時恩給ヲ受ケタル者宮內職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　宮內職員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス但シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年內ニ退職セサリシ場合ニ於テハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ヲ以テ退職當時ノ階等ト看做ス

宮內職員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス但シ普通恩給ヲ併給セラルル場合ニ於テハ別表第二號表ノ金額ノ十分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ傷病年金ノ年額トス

第四十七條　宮內職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シ又ハ皇宮警手在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第四十八條　本令ニ於テ遺族トハ宮內職員ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫及兄弟姉妹ニシテ宮內職員ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

宮內職員ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮內職員ノ死亡ノ當時其ノ戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

第四十九條　宮內職員在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、未成年ノ孫、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ扶助料ヲ給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ死亡者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第五十條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

未成年ノ孫ハ未タ婚姻セス且宮內職員死亡ノ當時其ノ家督相續人タルトキ又ハ宮內職員カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス但シ家督相續ニ付採ノ直近先順位ニ在ル者缺格及死亡以外ノ場合ニ於テ相續權ヲ失ヒタルニ因リ孫カ家督相續人タル場合又ハ家督相續人タルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

養子ハ宮內職員ノ家督相續人タルトキ又ハ宮內職員カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前二項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第五十一條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　第二號乃至第四號ニ特ニ規定スル場合ノ外ハ宮內職員ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

二　宮内職員戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ前號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第三號表ノ率ヲ乘シタル金額

三　宮内職員普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第四號表ノ率ヲ乘シタル金額

四　增助恩給ヲ併給セラルル者公務ニ起因スル傷痍疾病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第五號表ノ率ヲ乘シタル金額

前項第二號又ハ第三號ニ規定スル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ普通恩給年額ノ第二號ニ規定スル場合ハ百分ノ十、第三號ニ規定スル場合ハ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ加給ス

第一項第二號乃至第四號ニ規定スル場合ニ於テ扶助料ヲ受クル者ノ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クヘキ要件ヲ具フル遺族カ扶助料ヲ受クル者ヲ合シ三人以上アルトキハ其ノ扶助料年額ニ退職當時ノ階等及遺族ノ員數ニ依リ定メタル別表第六號表ノ率ヲ乘シタル金額ヲ加給ス但シ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合及二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於ケル加給ニ付テハ勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依ル

同一戸籍内ニ本令ニ依ル扶助料ヲ受クル者及恩給法ニ依ル扶助料ヲ受クル者アル場合又ハ本令ニ依ル扶助料ト恩給法ニ依ル扶助料トヲ併セ受クル者アル場合ニ於テ其ノ各ノ扶助料ニ付夫々前項又ハ恩給法第七十五條第二項ノ規定ノ適用上共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ニシテ恩

給法ニ依ル扶助料ニ付加給ノ原因ト爲リタルモノハ前項ノ規定ニ依ル加給ノ原因ト爲サス

勅任官又ハ勅任待遇職員ニシテ其ノ退職當時受クル俸給額カ奏任官ニ付定メタル最高俸ヲ超エサルモノアル場合ニ於テハ第一項第二號乃至第四號及第三項ノ規定ノ適用ニ付テハ奏任三等乃至五等ノ階等ノ率ヲ以テ其ノ退職當時ノ階等ノ率ト看做ス

第五十二條　宮内職員ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　宮内職員女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第五十三條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ宮内大臣ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ

得

第五十五條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第五十六條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子、孫又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ宮内大臣ハ宮内省恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

第五十七條　宮内職員第四十九條ノ規定ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第五十八條　宮内職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ皇宮警手在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ宮内職員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ宮内職員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第四十九條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第五十條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　本章ノ規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外普通恩給ヲ受クル者ノ遺族ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十一條　左ノ宮内省達及皇室令ハ之ヲ廢止ス

一　宮内省官吏恩給例、宮内省准官吏恩給例、宮内省官吏准官吏遺族扶助例

一　明治二十五年宮内省達甲第二號
一　明治二十六年宮内省達甲第一號
一　明治二十九年宮内省達甲第一號
一　明治三十年宮内省達甲第十一號
一　明治四十三年皇室令第四十一號
一　大正四年皇室令第四號
一　大正六年皇室令第十二號
一　皇宮警手恩給令
一　大正九年皇室令第七號
一　大正九年皇室令第十二號

第六十二條　本令施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料

其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本令ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本令ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ宮內職員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

第六十三條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本令施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第六十四條 第十條及第十一條ノ規定ハ本令施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本令ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クルコトヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

第六十五條 本令施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本令施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本令施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

判任待遇ノ皇宮警手ノ在職ニ繼續スル判任待遇ニ非サル皇宮警手ノ在職年ハ之ヲ第十七條ニ規定シタル皇宮警手ノ在職年ト看做ス

第六十六條 內地人タル宮內職員其ノ職務ヲ以テ朝鮮ニ四年間引續キ在勤シタル者ニ付テハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

第二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十七條 第三十一條第二項乃至第四項及第三十八條第一項第三號第二項ノ規定ハ本令施行前退職シタル宮內職員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ給與スル恩給ノ金額ハ本令施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第六十八條 第三十二條ノ規定ハ本令施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本令施行後退職シ本令施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 本令施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本令施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本令ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クルコトヲ得ル者ノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本令ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本令ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本令ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本令ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

第七十條 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料及遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クル者ニシテ本令所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本令所定

ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ增給ス

前項ノ規定ニ該當スル者ノ中政府ヨリ恩給ヲ受クル宮內官及軍人現役十一年以上ニシテ政府ヨリ恩給ヲ受ケシテ宮內官ト爲リタル者ノ恩給及其ノ遺族ノ扶助料ニ付テハ左ノ各號ニ依ルノ外從前ノ規定ニ依リ算出シタル恩給及扶助料ノ金額ヲ以テ本令所定ノ恩給及扶助料ノ金額ト看做ス

一　恩給年額ノ算出率ニ付テハ本令第四十四條ノ規定ニ依リ遺族扶助料年額ノ算出率ニ付テハ第五十一條ノ規定ニ依ル

二　政府ヨリ受クル恩給年額ニ付テハ恩給法第百一條又ハ第百三條ノ規定ニ依リ增額若ハ改定セラレ又ハセラルル金額ニ依ル

第一項ノ規定ニ依ル增給ニ付テハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第七十一條 明治四十三年三月三十一日迄ニ退職、休職ト爲リ若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ定ムル所ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ本令施行ノ日ヨリ增額給與ス

第七十二條 大正七年十二月十日前ノ皇宮警手ノ在職年月數ニシテ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クル權利ノ基礎タル在職年ニ通算セラレサルモノハ之ヲ皇宮警手ノ在職年ニ通算シ本令施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル退隱料ヲ改定シ又ハ新ニ普通恩給ヲ給ス但シ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クヘカラサル事由ニ因リ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

宮內省恩給令

第七十三條 恩給法ニ依リ公務員ノ恩給權ノ基礎トナルヘキ北海道屯田兵ノ在職年數ハ之ヲ宮內官ノ在職年ニ通算シ本令施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニシテ恩給法第百三條ノ規定ニ依リ年金タル恩給ヲ改定セラレ又ハ新ニ普通恩給ヲ給セラレタルトキハ第七十條第二項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ前二項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第七十五條 第七十條第七十一條第七十三條及第七十四條ノ規定ハ宮內省准官吏又ハ其ノ遺族トシテ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス但シ宮內官ノ恩給ト同一ノ算出率ニ依リ算出シタル恩給又ハ之ヲ基礎トシタル扶助料ヲ受クル場合ヲ除クノ外在職十六年未滿ノ者ニ給スル恩給年額ノ算出率ハ之ヲ退職若ハ死亡當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ四十トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對スル增加率ハ之ヲ其ノ俸給年額ノ百五十分ノ一トシテ恩給額ヲ計算ス

第七十六條 第六十二條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

附　則　（昭和八年皇室令第一號）

第一條 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テハ本令附則中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 第九條、第四十三條第一項第二號、第五十三條及第五十六條ノ改正規定ハ本令施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第四十三條第一項第三號ノ改正規定ハ本令施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者及本令施行ノ際現ニ在職シ本令施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生スル者ニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者本令施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付第四十三條第一項第三號ノ規定ヲ適用ス

第四十三條第一項第四號ノ改正規定ハ本令施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者ニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者本令施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ第四十三條第一項第四號ノ規定ヲ適用ス

第四條 本令施行前ノ在職年ノ計算ニ付テハ本令附則中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル

第五條 第二十六條ノ二ノ改正規定ハ本令施行前ノ在職ニ付之ヲ適用セス

第六條 本令施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本令施行後ト雖第二十六條ノ二ノ改正規定ヲ適用セス

第七條 傷病年金ニ關スル改正規定ハ本令施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ヲ罹リタル者ニ付之ヲ適用ス但シ本令施行前五年內ニ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者失格原因ナクシテ退職シ本令施行後五年內ニ傷病年金ヲ請求シタル場合ニハ傷病ノ程度ヲ查定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 本令施行ノ際現ニ宮內職員トシテ在職シ本令施行後退職スル者ノ在職年ノ計算及普通恩給年額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ハ改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達シタル者ト看做シ其ノ最短恩給年限ニ從前ノ規定ニ依ル最短恩給年限ヲ超ユル在職年月數ヲ加ヘ本令施行前ノ在職年及本令施行後ノ在職年ヲ合算シ改正規定ヲ適用シテ算出シタル金額ノ普通恩給ヲ給ス

二 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ノ本令施行前ノ在職年ハ一般宮內職員ニ在リテハ十五分ノ十七、皇宮警手ニ在リテハ十分ノ十二ヲ乘シテ換算シ本令施行前ノ在職年ト本令施行後ノ在職年トヲ合算シ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達シタル者ニハ改正規定ヲ適用シテ算出シタル金額ノ普通恩給ヲ給ス

三 前二號ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ給スヘキ場合ニ於テ在職年四十年以上ノ者ニ付テハ第四十四條第三項ノ規定ニ拘ラス在職年四十二年ニ至ル迄ハ在職年一年ヲ增ス每ニ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額トシ在職年四十二年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十二年トシテ計算ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ宮內職員トシテ在職シ本令施行後死亡シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

第九條 本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニシテ本令施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達スル

モノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ヲ給ス

第十條 本令施行ノ際現ニ宮內職員トシテ在職シ本令施行後退職スル者ニ給スヘキ一時恩給及其ノ遺族ニ給スヘキ一時扶助料ノ金額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 附則第八條ノ規定ニ依リ本令施行前ノ在職年ト本令施行後ノ在職年トヲ合算スルモ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ニハ其ノ實在職年(加算年ヲ含ム)ヲ基礎トシ改正規定ヲ適用シテ算出シタル一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給ス

二 在職年一年以上三年未滿ニシテ退職シタル者ニ給スヘキ一時恩給又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ一時扶助料ニ付テハ第四十七條第一項及第五十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 前條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニ付本令施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ宮內職員トシテ在職スル者ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ受クルノ資格ヲ得タルモノニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本令施行前ノ在職ト雖本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラルル者現ニ從前ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ受クルトキハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ停止ス

第二項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラレ本令施行後退職シ普通恩給ヲ給セラルル者大正十二年皇室令第十六號宮內省恩給令施行後同令ニ依リ一時恩給ヲ受ケタルモノナルトキハ宮內大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

第十三條 女官又ハ內掌典ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 本令施行前ノ女官又ハ內掌典ノ在職年ニシテ從前ノ規程ニ依レハ其ノ恩給ノ基礎ト爲ルヘキモノハ本令施行後ノ宮內職員ノ在職年ニ通算ス

二 前號ノ場合ニ於ケル本令施行前ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ附則第八條及第十條ノ規定ヲ適用ス

三 本令施行ノ際現ニ在職スル內掌典ニシテ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達シタルモノニ付テハ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ノ年額ト本令ニ依ル普通恩給ノ年額トヲ比較シ其ノ金額多キモノヲ以テ其ノ者ノ普通恩給ノ年額トス

第十四條 第四十五條ノ二ノ改正規定ハ本令施行前給與事由ノ生シタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セス

第十五條 第五十一條第二項ノ改正規定ハ宮內職員カ本令施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本令施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十六條 皇宮警手大正十二年皇室令第十六號宮內省恩給令施行前皇宮警手給助例又ハ皇宮警手恩給令ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ケ引續キ他ノ宮內職員ト爲リ宮內省恩給令施行後迄在職シタル後本令施行前退職シ第六十二條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ退隱料ヲ宮內職員ノ普通恩

給ニ改定セラレサリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラス特ニ第六十五條第一項ノ規定ヲ適用シ本令施行ノ日ヨリ從前ノ規定ニ依リ其ノ退職料ヲ改定ス但シ宮内省恩給令施行後宮内職員退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ宮内省恩給令施行後本令施行前ニ宮内職員トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項ニ規定スル者引續キ在職シ本令施行後退職スルトキハ第六十二條第一項ノ規定ニ拘ラス第六十五條第一項ノ規定ヲ適用シ皇宮警手トシテノ退職料ヲ宮内職員トシテノ普通恩給ニ改定ス但シ後ノ在職ニ對シ宮内職員トシテノ普通恩給ヲ受ク（キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　第六十六條ノ改正規定ハ本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ引續キ在職シ從前ノ規定ニ依ル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

附則（昭和十三年皇室令第七號）

第一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ増加恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニシテ本令所定ノ増加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本令所定ノ各相當増加恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ増給ス

前項ノ規定ハ昭和十三年四月一日以後ニ於テ從前ノ規定ニ依ル扶助料ヲ受ケ本令施行前之ヲ受ケサルニ至リタル者ニ對スル増給ニ付之ヲ準用ス

第三條　本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受クル者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ増加恩給又ハ傷病年金ヲ給ス

現症狀等差	改正症狀等差
傷病年金第一款	増加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第三款	傷病年金第二款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

前項ノ規定ハ昭和十三年四月一日以後ニ於テ從前ノ規定ニ依ル傷病年金ヲ受ケ本令施行前之ヲ受ケサルニ至リタル者ニ對スル増加恩給又ハ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第四條　第五十一條第二項ノ規定ハ宮内職員カ本令施行前ニ死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本令施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ附則第二條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

（別表）

第一號表

階等 ＼ 傷病症狀等差	親任勅任	奏任勅任待遇	判任	
			一等	二等三等	四等
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 特別項	圓 二、〇〇〇	圓 一、九八〇	圓 一、五六〇	圓 一、二八七	圓 一、一七〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第一項	二、〇〇〇	一、九八〇	一、五六〇	一、二八七	一、一七〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第二項	一、九〇〇	一、八八〇	一、五〇〇	一、二三四	一、一二〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第三項	一、八〇〇	一、七八〇	一、四四〇	一、一八〇	一、〇七〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第四項	一、七〇〇	一、六八〇	一、三六〇	一、一一四	一、〇一〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第五項	一、六〇〇	一、五八〇	一、二八〇	一、〇五四	九五〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第六項	一、五〇〇	一、四八〇	一、二〇〇	九九四	九〇〇
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第七項	一、四〇〇	一、三八〇	一、一二〇	九三四	八四〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 特別項	一、三〇〇	一、二八〇	一、〇四〇	八六四	七八〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第一項	一、二〇〇	一、一八〇	九六〇	七九四	七二〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第二項	一、一〇〇	一、〇八〇	八八〇	七三四	六六〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第三項	一、〇〇〇	九八〇	八〇〇	六六四	六〇〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第四項	九〇〇	八八〇	七二〇	五九四	五四〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第五項	八〇〇	七八〇	六四〇	五三四	四八〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第六項	七〇〇	六八〇	五六〇	四六四	四二〇
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第七項	六〇〇	五八〇	四八〇	三九四	三六〇

特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第二號表

階等 ＼ 傷病症狀等差	判任		
	一等	二等三等	四等
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第一款	圓 三四八	圓 二九〇	
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第二款	二六四	二二〇	
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第三款	二一六	一八〇	
甲號 戰傷病者戰死者遺族扶助法ニ關スル戰傷病者又ハ戰死者遺族ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第四款	一八〇	一五〇	
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第一款	二七九	二三二	
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第二款	二一二	一七六	
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第三款	一七三	一四四	
乙號 普通公務扶助料ニ關スル勅令ノ適用ヲ受クル者 第四款	一四四	一二〇	

高等官及同待遇者ニ給スヘキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スヘキ金額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

階等 ＼ 率	親任勅任	奏任勅任待遇	判任		
			一等	二等三等	四等
	二四割	二六割	二八割	三〇割	三二割

第四號表

階等	親任	奏任			判任				任
勅任		三等乃至五等	六等乃至八等		一等	二三等	四等		
勅任待遇		奏任待遇			判任待遇				
率	二・〇〇	二〇・八	二二・四	割	二二・四	二四・〇	二・四八	割	

第五號表

階等	親任	奏任			判任				任
勅任		三等乃至五等	六等乃至八等		一等	二三等	四等		
勅任待遇		奏任待遇			判任待遇				
率	一四・四	一五・六	一六・八	割	一六・八	一八・〇	一八・六	割	

第六號表

階等 / 遺族ノ數	親任	奏任			判任				任
勅任		三等乃至五等	六等乃至八等		一等	二三等	四等		
勅任待遇		奏任待遇			判任待遇				
三人	〇・五	一・〇	二・〇	割	二・〇	二・五	二・五	割	
四人	一・〇	一・七五	三・〇	割	三・〇	三・五	三・五	割	
五人以上	一・五	二・五	四・〇	割	四・〇	四・五	四・五	割	

●宮內省恩給令施行規則

大正十二年九月二十九日
宮內省令第十二號

改正　昭和八年第四號、一一年第七號、一三年第三號

宮內省恩給令施行規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

宮內省恩給令施行規則

第一條　宮內省恩給令第十七條ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　雅樂師長及奏任待遇タル廚司長

二　技手補、獵場監守、鷹匠、鵜匠頭、陵墓守部、膳手、廚司長、廚司、殿部、參奉、雅樂師及雅樂手長

前項ノ職員中前ニ他ノ判任待遇職員タリシ者ニ付テハ之ニ宮內省恩給令第三十六條第一項ノ規定ヲ適用スルトキハ勤續ト看做サルル場合ニ限リ前後ノ在職年ヲ通シ前項ノ職員トシテ勤續シタル者ト看做ス但シ前ニ雇員タリシ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　宮內省恩給令第二十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同令第二十六條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

宮內省恩給令第二十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同令第二十六條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　動員（之ニ準スルモノヲ含ム）部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員（之ニ準スルモノヲ含ム）下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後職務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ宮內省恩給令第二十三條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第二條ノ二　宮內省恩給令第二十六條ノ二ノ規定ニ依ル減算ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル期間一月以上ニ亙ルトキハ其ノ期間ガ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

二　半減シタル在職年ニ端月數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第三條　宮內省恩給令第三十二條第二項第一號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリヤ（黑水熱ヲ含ム）
二　猩紅熱
三　コレラ
四　腳氣（戰地ニ限ル）
五　發疹チフス
六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黃熱

第四條　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊掠人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ勤務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四　警護ノ任務ヲ有スル宮內職員危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ執行スルニ

因リテ加ヘラレタル傷痍疾病

五　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

第五條　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ八項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ

二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ

三　兩眼ノ視力カ明暗ヲ辨別シ得サルモノ

四　身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ

三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ

四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　大動脈瘤、鎖骨下動脈瘤、總頸動脈瘤、無名動脈瘤又ハ腸骨動脈瘤ヲ發シタルモノ

六　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

七　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

二　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ著シク妨クルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

五　泌尿器ノ機能ヲ著シク妨クルモノ

六　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノニシテ脫落症狀ノ著シカラサルモノ

七　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

八　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ高度ニ妨クルモノ

二　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ著シク妨アルモノ

三　一眼ノ視力ヲ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　脾臟ヲ失ヒタルモノ

五　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側總指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第七項症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳全ク聾シ他耳尋常ノ話聲ヲ一・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側腎臟ヲ失ヒタルモノ

四　一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側示指乃至小指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側足關節カ直角位ニ於テ强剛シタルモノ

七　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第五條ノ二　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳全ク聾シタルモノ

三　一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側示指乃至小指ノ機能ヲ廢シタルモノ

五　一側總趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第二款症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

四　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第三款症

一　一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

三　一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一　一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

一耳ノ聴力カ尋常ノ話聲ヲ〇・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

六　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第六條　待遇職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　雅樂師長及奏任待遇タル爵司長ハ奏任八等トス

二　判任待遇職員ハ判任四等トス

第六條ノ二　宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ニ於ケル所得但シ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ヲ含ム

二　恩給受給者カ前號ニ規定スル地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサル場合ニ於テ右地域内ニ有スル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

三　前號ノ恩給受給者カ第一號ニ規定スル地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

第六條ノ三　前條第三號ニ揭クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得稅法ニ規定スル個人ノ第三種所得中同法第十八條第一號乃至第五號ニ揭クル所得ヲ除外シタルモノト同範圍トス

第六條ノ四　恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得稅法第十四條第一項及第二項竝所得稅法施行規則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ五　年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ハ毎年三月三十一日迄ニ恩給外ノ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ之ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六條ノ六　恩給外ノ所得ハ毎年前條ノ届出ニ基キ宮内大臣之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ異議アルトキハ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第六條ノ七　宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年ノ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ因リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ決定スルコトヲ得サルトキハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ亦之ヲ更正ス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第六條ノ八　宮内省恩給令第四十五條ノ二ノ規定ニ依リ納付スヘキ金額ハ再就職後再退職ニ至ル迄ノ期間内ニ納付セシム但シ分納ヲ妨ケス

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ納付シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ納付金ハ之ヲ納付者ニ還付ス

第六條ノ九　宮内省恩給令第五十一條第三項但書ニ規定スル遺族ノ員數ニ依ル加給ニ付テハ左ノ區分ニ依ル

一　同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合又ハ二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於テハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ宮内大臣ニ於テ最初ニ請求ヲ受理シタル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス但シ前段ノ場合ニ在リテハ各ノ扶助料ヲ受クル者全員ノ連署ヲ以テ、後段ノ場合ニ在リテハ之ヲ併セ受クル者ヨリ宮内大臣ニ於テ後ニ請求ヲ受理シタル一ノ扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タラシムルコトヲ請求シタルトキハ後扶助料ノ加給額カ最初ノ扶助料ノ加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ改定請求アリタル月ノ翌月ヨリ加給額ヲ改定ス

二　前號ニ揭クル各ノ扶助料ノ請求ヲ宮内大臣ニ於テ同日ニ受理シタルトキハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ加給額ノ最多額ト爲ル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス

前項第一號但書ノ規定ニ依リ加給額ヲ改定シタル後ニ於テ請求セラレタル扶助料アル場合ニ於テハ其ノ扶助料ニ加給ヲ爲ストキ其ノ加給額カ既ニ改定セラレタル加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ更ニ改定ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項第一號但書ノ規定ヲ準用ス

第七條　宮内省恩給令第六十六條ノ規定ニ依ル内地人タル宮内職員ノ朝鮮在勤加算ハ朝鮮以外ノ地ヨリ朝鮮ニ赴任シタル者ニ付テハ朝鮮ニ到著シタル月ヨリ朝鮮ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メラレタル月ヲ以テ終ル

朝鮮ニ在勤中引續キ九十日以上朝鮮ヲ離レタルトキハ全ク朝鮮ヲ離レタル月ニ對シテハ在勤加算ヲ爲サス

第八條　宮内省恩給令第七十條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給規程ニ依ルモノナルトキハ別表第一號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ宮内省恩給令第四十四條、第四十五條及第五十一條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第二號表ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ從ヒ宮内省恩給令第四十六條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス

第六條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

第九條　宮内省恩給令第七十一條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增加スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第三號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ宮内省恩給令第七十條ノ規定ヲ適用ス

第十條　前二條ノ規定ハ宮内省恩給令第七十五條ノ規定ニ依リ普通恩給

第十一條　昭和八年皇室令第一號附則第十二條ノ規定ニ依リ普通恩給額ノ十分ノ一トス

又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ之ヲ準用ス

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十三年宮内省令第三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リテ貸与ス扶助料ノ増給中加給ノ場合ニ該當スル加給ハ增給セラルヘキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リテ貸与ス增加恩給又ハ扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待タスシテ之ヲ貸与ス但シ宮内省恩給令第五十一條第二項ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スル扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待チテ之ヲ貸与ス

第二號表　別表

令施行規則 恩給手續	宮内省恩給令						
	從前ノ規定			症狀等差			
					特別項	第一項	
第九條	第十條	第一項					
第一號			第一項				
第二號			第二項				
第三號			第三項				
第四號			第四項				
第五號			第五項				
第六號			第六項				

第二號表

增加金額	年俸最在額給總職
差百ト俸在ル圓七ヲ圓額終シ五 額圓七給職ヲ千ルヲニ俸在百 トトヲ千年最キ超五額加五給職圓 スノ五額終ハニ百カヘ百年最但	モ圓七圓六 ノ未千ヲ千 滿五超千五 ノ百ニ百
ト俸在 ノ七給職 差千年最 額圓額終	サ圓六圓五 ルヲ千ヲ千 モ超五超五 ノニ百ニ百
千 五 百 圓	モ超五超三 ノニ百ニ千 サ圓五圓 ルヲ千ヲ
ル加百額スニノ三年終在 額ヘ圓ニル相十十額俸職 タヲ二金當三分ノ給最	モニ圓ニ圓千 ノサヲニヲニ ル超千超百
額加二金相ノ俸在 ヘ十額當五給職 タ圓ニス圓年最 ルヲ百ル二額終	ルヲ千圓三百 モ超二ヲ百 ノニ百超六十 サ圓ニ
三	モ超六超三百 ノニ十ニ百 サ圓三圓 ルヲ百ヲ
百 圓	以 下 ノ モ ノ
金當割年終在 額ス二額俸職 ル相十給最	二百 圓

第三號表

高等官		判任官及皇宮警手	
給死亡遺族年額 當休時職ノ又ハ俸	假定俸給年額	給死亡遺族年額 當休時職ノ又ハ俸	假定俸給年額
六、〇〇〇	八、〇〇〇	九六〇	一、二〇〇
五、〇〇〇	六、〇〇〇	九〇〇	一、一四〇
四、〇〇〇	五、〇〇〇	八四〇	一、〇二〇
三、五〇〇	四、二〇〇	七八〇	九六〇
三、二〇〇	三、九〇〇	七二〇	九〇〇
三、〇〇〇	三、七〇〇	六六〇	八四〇
二、八〇〇	三、五〇〇	六〇〇	七八〇
二、六〇〇	三、二〇〇	五四〇	六六〇
二、四〇〇	三、〇〇〇	四八〇	六〇〇
二、二〇〇	二、七〇〇	四二〇	五四〇
二、〇〇〇	二、五〇〇	三六四	四八〇
一、八〇〇	二、三〇〇	三百六十圓以下	三百六十圓ヲ加ヘタル六十圓以下
一、六〇〇	二、一〇〇	三百二十四圓以下	三百二十四圓ヲ加ヘタル七十二圓以下
一、四〇〇	一、九〇〇	三百七十六圓以下	三百七十六圓ヲ加ヘタル八十圓以下
一、二〇〇	一、七〇〇	三百二十八圓以下	三百二十八圓ヲ加ヘタル八十圓以下
一、〇〇〇	一、五〇〇	三百八十圓以下	三百八十圓ヲ加ヘタル八十圓以下
八〇〇	一、三〇〇	三百三十二圓以下	三百三十二圓ヲ加ヘタル八十圓以下
六〇〇	一、一〇〇	三百四十四圓以下	三百四十四圓ヲ加ヘタル八十圓以下
四〇〇	九〇〇	三百五十六圓以下	三百五十六圓ヲ加ヘタル八十圓以下
二〇〇	七〇〇	三百六十八圓以下	三百六十八圓ヲ加ヘタル八十圓以下
	五〇〇	三百八十圓以下	三百八十圓ヲ加ヘタル八十圓以下
	三〇〇	三百九十二圓以下	三百九十二圓ヲ加ヘタル八十圓以下
	一〇〇	四百四圓以下	四百四圓ヲ加ヘタル八十圓以下

備考

一本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ

實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●宮内省恩給給與規則

大正十二年十月一日
宮内省令第十四號

改正　昭和五年第五號、八年第八號、一三年第四號

宮内省恩給給與規則左ノ通定ム

宮内省恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給、増加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ恩給請求書(第一號乃至第五號書式)ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歴書(第十七號書式)

二　戸籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)

増加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ現認者ノ現認證明書(第十八號書式)、所屬長ノ事實證明書(第十九號書式)等

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　宮内省恩給令第三十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書(第六號又ハ第七號書式)ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ宮内大臣ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書(第八號書式)ニ在職中ノ履歴書ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書(第九號又ハ第十號書式)ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第六條　宮内省恩給令第四十九條第一項ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍抄本但シ妻以外ノ請求者ニ在リテハ戸籍謄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(宮内職員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ以下同シ)

前項ノ場合ニ於テ宮内職員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第七條　宮内省恩給令第五十九條ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍抄本但シ妻以外ノ請求者ニ在リテハ戸籍謄本

二　宮内職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　前二條ノ場合ニ於テ宮内職員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第九條　宮内省恩給令第四十九條第一項又ハ第五十九條ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

三　請求者ノ戸籍謄本

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十條　宮内省恩給令第五十條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第六條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條ノ二　宮内省恩給令第五十一條第三項及宮内省恩給令施行規則第六條ノ九ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ノ増減ニ因リ加給スヘキ類ニ増減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書(第十一號書式)ニ改定ヲ受クヘキ扶助料ノ證書及戸籍ノ抄本又ハ謄本(遺族ノ員數ノ増減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

宮内省恩給令第五十一條第三項及宮内省恩給令施行規則第六條ノ九第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書(第十二號書式)ニ前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戸籍ノ抄本又ハ謄本(遺族ノ員數ノ増減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第十一條　宮内省恩給令第五十四條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書(第十三號書式)ニ左ノ書類ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ宮内省恩給令第五十五條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十二條　宮内省恩給令第五十五條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求ス

ル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料停給請求書（第十四號書式）ニ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十三條　宮内省恩給令第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書（第十五號書式）ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第十四條　宮内省恩給令第五十七條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本

二　宮内職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ宮内職員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戸籍謄本

第十五條　宮内省恩給令第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戸籍謄本

第十六條　宮内省恩給令第十一條第二項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第十七條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本

第十八條　一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ宮内省恩給令第十一條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十九條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十條　恩給請求書ノ提出アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ審査シ權利ノ有無ヲ決定シ宮内大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ權利アリト裁定アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十六條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

宮内大臣官房祕書課長ハ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ第一項ノ場合ニ於テ權利ナシト裁定シタルトキハ宮内大臣ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ但シ一時金タル恩給ニ付テハ帝室會計審査局長官ニ通知スルコトヲ要セス

第二十二條　第二十條第二項ノ規定ニ依リ年金タル恩給證書ノ下付ヲ受ケタル者ハ速ニ受領書ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ差出シ恩給請求書ニ押捺セル印章ヲ以テ作成シタル氏名ヲ記載シタル印鑑ヲ内藏頭ニ差出スヘシ

第二十三條　權利者ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第二十四條　宮内大臣ハ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ權利者ニ通知スヘシ

第二十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　恩給ノ支給

第二十五條　宮内大臣ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　年金タル恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ内藏寮ヨリ交付スル用紙ニ依リテ作成シタル恩給支給請求書ヲ支給期月ノ十日迄ニ内藏頭ニ差出スヘシ

第二十七條　年金タル恩給ハ毎年三月、六月、九月、十二月ノ四期ニ於テ各其ノ月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給又ハ權利消滅若ハ停止ノ場合ニ於ケル其ノ月迄ノ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

第二十八條　内藏頭ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第二十九條　普通恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ宮内省恩給令第四十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ本人ヨリ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ恩給停止ノ事由止ミタルトキ亦同シ

第三十條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ本人又ハ縲紲者ヨリ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ死亡シ又ハ宮内省恩給令第四十二條若ハ第五十六條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縲紲者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第三十二條　宮内大臣官房祕書課長前三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ普通恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リタルトキ亦同シ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキ若ハ改印シタルトキハ速ニ之ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ前項ノ屆出アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭ニ通知スヘシ

第五章　受給權調査

第三十三條ノ二　年金タル恩給ヲ受クル者ハ左ニ揭クル書類ヲ隔年差出スヘシ但シ宮内省ニ在職スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　受給者ノ身分關係ノ變動ニ付事實ヲ證スルニ足ルヘキ戸籍抄本但シ扶助料權者ニシテ宮内省恩給令第五十一條第三項ノ規定ニ依ル加給ヲ受クルモノニ付テハ遺族ノ員數ヲ明瞭ニシ得ル戸籍ノ抄本又ハ謄本

二　遺族タル夫又ハ成年ノ子若ハ孫カ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルルトキハ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ昭和ノ奇數年六月末日迄ニ之ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ差出スヘシ但シ恩給ノ裁定ヲ受ケタル年ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條ノ二　前條ニ規定スル書類ヲ差出ササル受給者ニ對シテハ之ヲ差出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムルコトアルヘシ

第六章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十四條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ宮内大臣官房祕書課長ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ再交付申請書(第二十號書式)ニ證據書類ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ事由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ宮内大臣官房祕書課長ニ之ヲ返還スヘシ

第三十七條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ

第七章　具申及裁決

第三十八條　宮内省恩給令第十四條ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所

二　具申ノ趣旨及理由

第四十條　宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　(昭和十三年宮内省令第四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮内省恩給令第八條ノ二第一項但書ノ規定ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供セラレタル恩給ニ關スル恩給證書ノ交付及恩給ノ支給ニ付テハ宮内省恩給給與規則ニ依ラサルコトヲ得

別　紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

年　月　日

宮内大臣　氏　名殿

氏　名印

第二號書式

普通恩給
增加恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

年　月　日

宮内大臣　氏　名殿

氏　名印

第三號書式

傷病年金請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

年　月　日

宮内大臣　氏　名殿

氏　名印

第四號書式

增加恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

年　月　日

宮内大臣　氏　名殿

氏　名印

第九號書式

扶助料請求書

宮内官吏又ハ恩給權者ノ氏名

右者年月日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

氏名印

宮内大臣氏名殿

第十號書式

扶助料請求書

前扶助料權者氏名

右者年月日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

宮内官吏又ハ恩給權者ノ身分關係

氏名印

宮内大臣氏名殿

第十一號書式

扶助料改定請求書

一、扶助料證書番號

二、證書ノ日附

三、扶助料年額

前記扶助料受給中ノ遺族ノ員數增加又ハ減少致候ニ付年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

請求者氏名印

宮内大臣氏名殿

第十二號書式

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料

一、扶助料證書番號

二、證書ノ日附

三、扶助料年額

（イ）（ロ）（ハ）

第二ノ扶助料

一、扶助料證書番號

二、證書ノ日附

三、扶助料年額

（イ）（ロ）（ハ）

第三ノ扶助料以下右ニ準ス

年月日

宮内大臣氏名殿

第五號書式

傷痍年金請求書

傷痍年金ヲ受ケントスル者ノ氏名

右者年月日官職ヲ退職シ傷痍ノ症ニ因リ別紙證據書類相添ヘ年金證書下付相成度此段請求候也

年月日

現住所

氏名印

宮内大臣氏名殿

第六號書式

再審請求書

前傷痍年金證書ノ番號

右者年月日退職ニ因リ普通恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）同復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

退職當時ノ官職名

氏名印

宮内大臣氏名殿

第七號書式

再審請求書

傷痍年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）同復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

退職當時ノ官職名

氏名印

宮内大臣氏名殿

第八號書式

一時恩給請求書

退職致候ニ付一時恩給ヲ與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

現住所

退職當時ノ官職名

氏名印

宮内大臣氏名殿

第十六號書式

一時扶助料請求書

宮内職員ノ官職名
氏名

右者年月日在職中死亡候ニ付宮内省恩給令第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年月日

宮内大臣
氏名殿

氏名印

宮内職員ノ身分關係
現住所

第十七號書式

履歷書

年月日	事記	官公署名

退職當時ノ官職名

氏名印

年月日生

第十八號書式

一退職ノ事由ヲ明記スヘシ

現認證明書

宮内職員ノ官職名

右者年月日(午前後)時地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名
氏名印

現認者

年月日

氏名印

備考
本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十九號書式

事實證明書

宮内職員ノ官職名

右者年月日ヨリ月日ヨリ日迄ヨリ(何)ニ從事シタリ(何)ノ處置ヲ施シタリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後於テ(何)ノ症狀ヲ發シ(何)ノ狀況ニ立至リ年月日(何)ニ於テ死亡候事實ニ相違無之候也

氏名印

年月日

備考
一履歷書ハ一通提出スヘシ

前記扶助料中第一ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受ケントスル年月日

類相添ヘ請求候也

右者年月日死亡ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

扶助料停止申請書

宮内大臣
氏名殿

氏名印

現住所

請求者
第一ノ扶助料受給者

氏名印

宮内職員ノ身分關係

年月日

第二十號書式

額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

扶助料轉給請求書

宮内大臣
氏名殿

氏名印

現住所

請求者
第一ノ扶助料受給者

氏名印

宮内職員ノ身分關係

年月日

第二十一號書式

扶助料停止申請書

宮内大臣
氏名殿

氏名印

修止セラルヘキ扶助料權者ノ

氏名

年月日

右者年月日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

第二十二號書式

一時扶助料請求書

宮内職員又ハ宮内職員タリシ者ノ退職當時ノ官職名

氏名

右者年月日死亡候ニ付宮内省恩給令第五十七條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

宮内職員又ハ宮内職員タリシ者ノ遺族ノ身分關係

現住所

請求者
第一ノ扶助料受給者

氏名印

年月日

宮内大臣
氏名殿

第二十三號書式

扶助料轉給請求書

宮内大臣
氏名殿

氏名印

修止中ノ扶助料權者

氏名

年月日

右者所在不明ニ因リ扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

宮内職員ノ身分關係

現住所

請求者
第一ノ扶助料受給者

氏名印

年月日

右證明ス

年　月　日　　所屬長　氏　　名印

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第二十號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一　恩給證書ノ番號（裁定通知書ノ番號）

一　恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一　恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

退職當時ノ官職名又ハ
宮內職員トノ身分關係
現住所

年　月　日　　氏　　名印

宮內大臣氏名殿

●更正手續

大正十二年十月一日
宮內省令第十五號

改正　昭和五年第六號

宮內省恩給令第七十條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條　宮內省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

第二條　宮內省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　第一條ノ規定ニ依ル新證書ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス宮內大臣官房祕書課ニ於テ之ヲ調製シ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給權者ハ受領書ニ從前ノ證書ヲ添附シ宮內大臣官房祕書課ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ證書ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第五條　宮內省恩給令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ宮內省恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條及第七條ノ規定ニ依リ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第六條　從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ宮內省恩給令第七十條乃至第七十三條ノ規定ニ依リ更正增額スル場合ニ於テハ第一條乃至第五條ノ規定ニ依リ先ツ同令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲ス

第七條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮內省恩給給與規則ノ準用ス

第八條　宮內省恩給令第七十五條ノ規定ニ依ル恩給又ハ扶助料ノ增額又ハ新ニ恩給ヲ給スヘキ場合ニ付テハ本令ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和八年皇室令第二號（恩給ノ增額等ニ關スル件）

昭和八年九月十九日
皇室令第二號

（宮內大臣副署）

第一條　昭和六年六月以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ本令施行後退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニハ俸給ニ關スル從前ノ規程ニ依レハ受クヘカリシ俸給ヲ基礎トシ恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月以降新ニ制定セラレ若ハ制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受クヘカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シ俸給（加俸ヲ含ム）ヲ減額セラレタル宮內職員爾後其ノ俸給ヲ變動セラルルコトナクシテ退職又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス

二　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シタル宮內官爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職又ハ死亡シタル場合及該俸給規程施行後就職シタル宮內官退職又ハ死亡シタル場合ニ於テ其ノ俸給額カ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給額ニ直近スル下位ノ級俸定額カ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給額ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給額ニ直近スル上位ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ヲ超ユルコトナシ

三　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行後年功加俸ヲ給セラレ又ハ變動セラレテ退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ年功加俸ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高限ニ對シテ有スル割合ヲ以テ除シタル金額トス

四　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シタル宮內待遇職員爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル宮內待遇職員退職又ハ死亡シタルトキハ勅任待遇奏任待遇宮內職員ニ在リテハ宮內官官等俸給令中高等官ノ俸給ニ關スル規定、判任待遇宮內職員ニ在リテハ同令中判任官ノ俸給ニ關スル規定ニ依リ受ケタルモノト假定シ第二號ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

前項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ計算シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

第三條 昭和六年五月三十一日以前ニ休職ト爲リ昭和六年六月以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ本令施行ノ日迄ニ退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニハ其ノ恩給額ト俸給ニ關スル從前ノ規程ニ依レハ受クヘカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ增給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス

前項ノ增給及追給ハ本人ノ請求ヲ俟タスシテ之ヲ更正ス

第四條 昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程施行ノ際現ニ宮內職員ノ官職ニ在リタル者引續キ在職シ本令施行後退職スルモノ又ハ休職ト爲ルモノニ付テハ當分ノ內特ニ從前ノ規定ニ依ル俸給（年功加俸ヲ含ム）ヲ給スルコトヲ得傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ危篤ニ陷リタルモノニ付亦同シ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮內官及宮內待遇職員相互間ニ轉官轉職シ又ハ廢官、廢職、廢廳若ハ官職名改定ノ際其ノ改廢ニ係ル官職ニ在ル者卽日若ハ翌日更ニ宮內職員ニ任命セラレタルトキハ引續キ在職スルモノト看做ス

第五條 前條ノ規定ニ依リ從前ノ規程ニ依ル俸給ヲ給セラレタル者ノ恩給ニ付テハ第一條ノ規定ヲ適用セス

附 則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年九月十九日
宮內省令第九號

昭和八年皇室令第一號附則第七條但書及第十六條竝昭和八年皇室令第二號第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條 昭和八年皇室令第一號附則第七條但書及第十六條ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求セムトスル者ハ宮內省恩給給與規則第一條及第二條ノ規定ニ依リ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第二條 昭和八年皇室令第二號第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行シ受給權者ニ交付ス

前項ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給權者ハ從前ノ證書ヲ返還スヘシ

第三條 恩給ノ更正ニ關シ本令中別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮內省恩給給與規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年八月一日
宮內省令第五號

昭和十三年皇室令第七號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條 昭和十三年皇室令第七號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正ニ付テハ宮內省恩給給與規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙

第一號書式

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料 (イ)扶助料證書番號
(ロ)證書ノ日附
(ハ)扶助料年額

第二ノ扶助料 (イ)扶助料證書番號
(ロ)證書ノ日附
(ハ)扶助料年額

（第三ノ扶助料以下右ニ準ス）

前記扶助料中第　ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所
請求者　第一ノ扶助料受給者
氏　名印

現住所
請求者　第二ノ扶助料受給者
氏　名印

（第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス）

宮內大臣氏名殿

第二號書式

更正請求書
一、扶助料證書番號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額
昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額更正相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日　　現住所　　請求者　氏　　名印

宮內大臣氏名殿

●明治四十三年勅令第二十五號（郵便官署ヲシテ年金及恩給ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件）

明治四十三年三月十六日
勅令第二十五號

改正　大正一四年第一二二號、昭和九年第三九五號

朕郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、外務、內務、遞信大臣副署）

國庫ノ支辨ニ屬スル年金及恩給ノ支給ニ關スル事務ハ遞信省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歲入金歲出金竝歲入歲出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●年金恩給支給規則

大正十二年十一月十日
遞信省令第九十二號

改正　昭和三年第五號、一三年第五四號

年金恩給支給規則左ノ通改正ス

年金恩給支給規則

第一章　總則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一、明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金
二、大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金
三、特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

第三條　繼續給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄ト

ス但シ恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合又ハ年金ノ支給ヲ廢止セラレタル場合ニ於ケル給與金ニ付テハ支給期月及期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

一時限ノ給與金ノ支給ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

第四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　受給者鶴居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條　代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章　繼續支給

第七條　繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ差出ス（シ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條　受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金又ハ振替貯金及集月掛貯金ヲ除ク）ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條　受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ差出ス（シ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條　前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給

期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條 受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條 受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

第四章 恩給金庫ニ對スル支拂

第十八條 恩給金庫ニ支拂ヲ爲スヘキ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ恩給金庫ノ郵便振替貯金ニ振替預入ヲ爲ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金庫法

昭和十三年四月一日
法律第五十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給金庫法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年三月二十九日

(總理、大藏、內務大臣副署)

恩給金庫法

第一章 總則

第一條 恩給金庫ハ法人トス

第二條 恩給金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置シ又ハ官廳其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルコトヲ得

第三條 恩給金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

政府ハ五百萬圓ヲ限リ恩給金庫ニ出資スベシ

第四條 恩給金庫ハ出資ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス

第五條 恩給金庫ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ恩給金庫ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六條 出資者ハ恩給金庫ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第七條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ恩給金庫ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザル場合ニ於テ持分ノ讓渡ヲ恩給金庫ノ原簿ニ登錄シタル後二年ヲ超エザル讓渡人アルトキハ恩給金庫ハ之ニ對シ期限ヲ定メ拂込ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人ハ其ノ持分ヲ取得ス

前項ノ規定ニ依ル出資者及讓渡人ノ拂込ナキトキハ恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ該持分ヲ賣却スルコトヲ得賣却ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザルトキハ從前ノ出資者ヲシテ其ノ不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得其ノ者ガ二週間內ニ之ヲ辨濟セザルトキハ前項ノ讓渡人ニ對シテモ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ恩給金庫ガ損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第八條 恩給金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的
二 名稱
三 事務所ノ所在地
四 資本金額及資產ニ關スル事項
五 役員及會議ニ關スル事項
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
七 恩給債券ノ發行ニ關スル事項
八 會計ニ關スル事項
九 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第二章 役員

第九條 恩給金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十條 恩給金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ恩給金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル課稅ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 恩給金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 恩給金庫ニ非ザル者ハ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第三章 役員

第十三條 恩給金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十四條 理事長ハ恩給金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ恩給金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ恩給金庫ノ業務ヲ監査ス

第十五條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

恩給金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間恩給金庫ノ理事長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ

持ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第十六條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 恩給金庫ニ評議員二十人以内ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三年トス

第三章 業務

第十八條 恩給金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一 恩給法ニ依ル恩給ヲ擔保トスル貸付

二 勳章年金(以下單ニ年金ト稱ス)ヲ擔保トスル貸付

三 恩給法以外ノ法令(地方公共團體ノ條例ヲ含ム)ニ依ル恩給ヲ擔保トスル貸付

四 恩給及年金ノ代理受領竝ニ受領シタル金錢ノ寄託ノ引受

五 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第十九條 恩給ハ其ノ裁定前ト雖モ給與ヲ受クベキコトノ確實ナルモノニ付テハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲ス貸付ノ金額ハ裁定後ニ爲ス貸付ノ標準金額ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十條 恩給金庫ハ先ヅ恩給又ハ年金ノ支給金ヲ以テ貸付金ノ元利ニ充當スベシ

前項ノ規定ニ依リ充當ヲ爲シタル殘餘ノ貸付金ニ於テハ恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ債權ヲ拋棄スルコトヲ得

第二十一條 恩給金庫ハ其ノ債權ヲ確保スル目的ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ債務者ニ代リテ恩給及年金ニ關スル請求其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 恩給金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

第二十三條 恩給金庫ハ資本金ノ十分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ其ノ業務ヲ開始スルコトヲ得

第四章 擔保力

第二十四條 擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ハ恩給金庫ノミ其ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得

第二十五條 公務員(之ニ準ズル者ヲ含ム)ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ擔保ニ供シタルトキハ其ノ效力ハ其ノ遺族ノ受クベキ恩給又ハ年金ノ上ニ及ブコトナシ

遺族ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ擔保ニ供シタルトキハ其ノ效力ハ擔保ニ供シタル者ノ後順位者ノ受クベキ恩給又ハ年金ノ上ニ及ブコトナシ

第二十六條 恩給ヲ擔保ニ供シ恩給金庫ヨリ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ債務ノ完濟ニ至ル迄ハ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第二十七條 再就職其ノ他ノ事由ニ因リ恩給ガ改定若ハ更正セラレ又ハ

年金ガ進級增額若ハ更正セラルル場合ニ於テ恩給金庫ガ改定、進級增額又ハ更正前ノ恩給又ハ年金ニ付擔保權ヲ有スルトキハ恩給金庫ハ當然新恩給又ハ新年金ノ上ニ擔保權ヲ有ス

第二十八條 恩給ヲ擔保ニ供シタル者再ビ就職シ恩給ヲ停止セラルル場合ニ於テハ恩給金庫ハ恩給ノ支給金ヲ以テ辨濟ヲ受クベキ金額ノ範圍內ニ於テ其ノ者ノ受クベキ俸給中ヨリ貸付金額ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第二十九條 恩給又ハ年金ヲ擔保トスルニハ其ノ證書ヲ恩給金庫ニ交付スベシ但シ恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ハ遲滯ナク裁定廳ニ其ノ要旨ヲ申告シ置クコトヲ要ス

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル申告ヲ受ケタル件ニ付恩給給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ裁定廳ハ恩給證書ヲ恩給金庫ニ交付スベシ

第三十二條 裁定ヲ經タル恩給又ハ年金ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ハ遲滯ナク恩給ノ裁定廳又ハ賞勳局及支給廳ニ其ノ旨ヲ申告スベシ擔保權ノ消滅シタルトキ亦同ジ

第三十三條 恩給金庫ニ擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ニ付證書ノ再發行ヲ爲ス場合ニ於テハ新證書ハ之ヲ恩給金庫ニ交付スベシ擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ヲ改定、進級增額又ハ更正スルニ當リ新ニ證書ヲ發行スル場合亦同ジ

第三十四條 本章ニ規定スルモノノ外恩給又ハ年金ノ擔保ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 恩給債券

第三十五條 恩給金庫ハ拂込資本金額ノ十五倍ヲ限リ恩給債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價證券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第三十六條 恩給債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

恩給債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十七條 恩給金庫ハ恩給債券借換ノ爲一時第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ恩給債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月內ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊恩給債券ヲ償還スベシ

第三十八條 恩給債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十九條 恩給金庫ニ於テ恩給債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十條 恩給債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第四十一條 所得稅法、資本利子稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

第四十二條 本章ニ規定スルモノノ外恩給債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 會計

第四十三條 恩給金庫ノ事業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第四十四條 恩給金庫ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ

以上ヲ積立ツベシ

第四十五條　恩給金庫ハ成立後二十事業年度ノ間ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對スル剩餘金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第四十六條　恩給金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ前項ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六章　監督

第四十七條　恩給金庫ハ內閣總理大臣及大藏大臣之ヲ監督ス

第四十八條　恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十九條　恩給金庫ハ每事業年度ノ初ニ於テ貸付利率ノ最高限度其ノ他貸付ニ關スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五十條　主務大臣ハ恩給金庫ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　主務大臣ハ特ニ恩給金庫監理官ヲ置キ恩給金庫ノ業務ヲ監視セシム

第五十二條　恩給金庫監理官ハ何時ニテモ恩給金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

恩給金庫監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ恩給金庫ニ命ジテ業務及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

恩給金庫監理官ハ恩給金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十三條　役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八章　罰則

第五十四條　左ノ場合ニ於テハ恩給金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三　第二十二條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四　第三十五條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シ恩給債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五　主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六　第五十二條ノ規定ニ依ル恩給金庫監理官ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第五十五條　左ノ場合ニ於テハ恩給金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二　第四十六條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第五十六條　第十二條ノ規定ニ違反シ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十七條　非訟事件手續法第二百六號乃至第二百八號ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第五十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十三年勅令第三百五號ヲ以テ昭和十三年五月二日ヨリ施行）

第五十九條　主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ恩給金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條　設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集スベシ

第六十一條　設立委員ハ出資者ノ募集終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第六十二條　出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ恩給金庫ハ之ニ因リテ成立ス此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ恩給金庫理事長ニ引繼グベシ

第六十三條　本法ニ規定スルモノノ外恩給金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　登錄稅法中第六條ノ二ヲ第六條ノ三トシ第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二　恩給金庫ガ恩給債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　恩給債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込　每回拂込金額　千分ノ二

二　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件　金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムベシ

第六十五條　登錄稅法第十九條第七號中「產業組合」ノ上ニ「恩給金庫、」ヲ、「產業組合法」ノ上ニ「恩給金庫法、」ヲ加フ

第六十六條　印紙稅法第五條中第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二　恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書帳簿

●恩給金庫法施行令

昭和十三年六月二十九日
勅令第四百四十三號

改正　昭和一三年第六六三號

朕恩給金庫法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信、大藏大臣副署）

恩給金庫法施行令

第一章　出資證券

第一條　恩給金庫ノ出資證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ理事長之ニ記名捺印スベシ

一　恩給金庫ノ名稱

二　恩給債券ノ總額
三　各恩給債券ノ金額
四　恩給債券ノ利率
五　恩給債券償還ノ方法及期限
六　利息支拂ノ方法及期限
七　數回ニ分チテ恩給債券ノ拂込ヲ爲サシメタルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
八　恩給債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
九　恩給金庫ノ資本金額及拂込資本金額
十　最終ノ貸借對照表ニ依ル恩給金庫ノ貸付金及所有有價證券ノ現在高
十一　舊恩給債券借換ノ爲恩給金庫法第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨
十二　前ニ恩給債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

恩給債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　出資者ノ氏名及住所
二　各出資者ノ出資口數及出資證券ノ番號
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日
四　各出資證券ノ取得ノ年月日

第二章　恩給債券

第五條　恩給金庫ハ前ニ發行シタル恩給債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ恩給債券募集ノ委託ヲ受ケタル者ガ自ラ恩給債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第六條　恩給債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ恩給債券申込證二通ニ其ノ引受クベキ恩給債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印スベシ

恩給債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　恩給金庫ノ名稱
二　恩給債券ノ總額
三　各恩給債券ノ金額
四　恩給債券ノ利率
五　恩給債券償還ノ方法及期限
六　利息支拂ノ方法及期限
七　數回ニ分チテ恩給債券ノ拂込ヲ爲サシム

無記名式恩給債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第三章　恩給又ハ勳章年金ノ擔保ノ實行

第十九條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十四條ノ規定ニ依リ恩給又ハ勳章年金（以下單ニ年金ト稱ス）ノ支拂ヲ求ムル場合ニ於テハ支給期日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル支拂請求書ヲ支給廳ニ提出スベシ

一　證書ノ記號番號
二　給與金ノ種別
三　受給者ノ氏名
四　給與年額及每期給與金額

第二十條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十八條ノ規定ニ依リ再就職者ノ受クベキ俸給中ヨリ貸付金額ノ辨濟ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ再就職ノ官廳ニ提出スベシ

一　再就職者ノ官職、氏名及生年月日
二　俸給年額
三　恩給年額
四　恩給證書ノ記號番號
五　貸付金額及現存債權金額
六　恩給ノ支給金ヲ以テ辨濟ヲ受クベキ金額ノ月割額
七　俸給中ヨリ辨濟ヲ受ケントスル金額ノ總額
八　俸給中ヨリ辨濟ヲ受ケントスル金額ノ月額

前項第八號ノ金額ハ再就職者ノ受クベキ俸給月額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十一條　俸給支給廳前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ再就職者ニ通知シ請求アリタル月ノ翌月ヨリ俸給支給ノ際前條第一項第八號ノ金額ヲ恩給金庫ニ支拂フベシ

第二十二條　再就職者ガ債務ノ完濟前退官退職シ若ハ俸給支給廳ヲ異ニスル官廳ニ轉ジタルトキ又ハ其ノ俸給額ニ異動ヲ生ジタルトキハ俸給支給廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ恩給金庫ニ通知スベシ

第二十三條　恩給ノ裁定廳又ハ賞勳局ハ恩給金庫法第三十條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ恩給金庫ヨリ申告ヲ受ケタル件ニ付恩給ヲ受クルノ權利又ハ年金ヲ受クルノ資格ニ消滅、停止其ノ他ノ變動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ恩給金庫ニ通知スベシ

第二十四條　恩給金庫ガ恩給金庫法第三十條又ハ第三十二條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後債權額ノ異動（恩給又ハ年金ノ支拂ニ因ル異動ヲ除ク）アリタルトキ又ハ恩給ヲ受クルノ權利若ハ年金ヲ受クルノ資格ノ消滅アリタルコト若ハ受給者ノ氏名ノ變更アリタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク恩給ノ裁定廳又ハ賞勳局及支給廳ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第四章　登記

第二十五條　恩給金庫ハ其ノ成立ノ日ヨリ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　成立ノ年月日
五　資本金額
六　出資一口ノ金額
七　出資一口ニ付拂込ミタル金額
八　理事長、理事及監事ノ氏名及住所
九　公告ノ方法

恩給金庫ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間内ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條　恩給金庫ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十七條　恩給金庫ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

恩給金庫ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第二十五條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十八條　第二十五條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條　恩給債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第九條ノ拂込アリタルトキ又ハ第十一條ノ賣出期間滿了シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第六條第二項乃至第六號ニ掲グル事項
二　各恩給債券ニ付拂込ミタル金額

前條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第三十條　登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第三十一條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十二條　恩給金庫ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ恩給金庫登記簿ヲ備フ

第三十三條　設立ノ登記ハ理事長、理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十四條　設立登記ノ申請書ニハ定款、恩給金庫法第六十二條第一項ノ出資者總會ノ決議錄、出資ノ引受ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ持

込アリタルコトヲ證スル書面竝ニ理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第二十五條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十五條　恩給債券ノ登記ノ申請書ニハ最終ノ貸借對照表竝ニ恩給債券ノ引受ヲ證スル書面、恩給債券申込證及各恩給債券ニ付第九條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ賣出期間內ニ於テ賣上ゲタル恩給債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ恩給債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ付之ヲ準用ス

第五章　外地ニ於ケル課稅

第三十七條　朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於テハ恩給金庫ニハ各當該地ノ法令ニ依ル所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セズ

第三十八條　朝鮮ニ於ケル道、府邑面、臺灣ニ於ケル州廳、市街庄、關東州ニ於ケル地方費、市、會、樺太ニ於ケル市町村及南洋群島ニ於ケル地方費ハ恩給金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條　朝鮮所得稅令、朝鮮資本利子稅令、臺灣所得稅令、臺灣資本利子稅令、關東州所得稅令、樺太所得稅令、樺太資本利子稅令及南洋群島所得稅令中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金庫法施行規則

昭和十三年七月七日
閣令
大藏省令第一號

恩給金庫法施行規則左ノ通定ム

恩給金庫法施行規則

第一條　恩給金庫ガ新ニ從タル事務所ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　設置ヲ必要トスル理由
二　設置ノ場所
三　取扱フベキ業務ノ範圍

從タル事務所ヲ廢止シ又ハ其ノ業務ノ範圍ヲ變更セントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

第二條　恩給金庫ガ官廳其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ委託セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　委託セントスル官廳其ノ他ノ機關ノ名稱及委託事務ヲ取扱フベキ場所
二　委託セントスル事務ノ種類
三　恩給ヲ受クルノ權利又ハ勳章年金ヲ受クルノ資格ノ消滅シタル原因及其ノ年月日
四　現存スル債權ノ金額
五　貸付金ニ關スル精算書
六　債務者又ハ其ノ相續人ノ資產狀況

第五條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十二條ノ規定ニ依リ業務上ノ餘裕金ヲ以テ國債及地方債以外ノ有價證券ヲ取得セントスルトキハ其ノ有價證券ノ種類、名稱、額面金額、數量及時價額ヲ記載シテ認可ヲ申請スベシ

恩給金庫法施行規則

第三條　恩給金庫ハ每事業年度ノ初ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル事業方法書ヲ提出シテ之ガ認可ヲ申請スベシ

一　貸付ヲ受ケ得ル者ノ範圍
二　貸付金額ノ最高限度
三　貸付利率ノ最高限度
四　其ノ他貸付ニ關スル條件
五　追加貸付ニ關スル事項
六　寄託金ニ對スル利率及受託業務ノ手數料率

第四條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十條第二項ノ規定ニ依リ債權ヲ拋棄セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　債務者及其ノ相續人ノ氏名、住所及職業
二　擔保ニ供セラレタル恩給又ハ勳章年金ノ證書ノ記號番號
三　恩給ヲ受クルノ權利又ハ勳章年金ヲ受クルノ資格ノ消滅シタル原因及其ノ年月日
四　現存スル債權ノ金額
五　貸付金ニ關スル精算書
六　債務者又ハ其ノ相續人ノ資產狀況

第五條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十二條ノ規定ニ依リ業務上ノ餘裕金ヲ以テ國債及地方債以外ノ有價證券ヲ取得セントスルトキハ其ノ有價證券ノ種類、名稱、額面金額、數量及時價額ヲ記載シテ認可ヲ申請スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十三年勅令第三百六號（恩給金庫ノ設立ニ關スル件）

昭和十三年四月三十日
勅令第三百六號

恩給金庫ノ設立ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條 恩給金庫ニ出資ノ申込ヲ爲サントスル者ハ出資申込書二通ニ申込者ノ氏名又ハ名稱及住所竝ニ其ノ引受クベキ口數ヲ記載シ申込者又ハ其ノ代表者之ニ記名捺印シ設立委員ニ提出スベシ

前項ノ出資申込書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 定款認可ノ年月日

二 目的

三 主タル事務所ノ所在地

四 資本金額

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 申込ミ得ベキ最高出資口數

七 公告ノ方法

第二條 出資ノ申込ニ對スル割當ニ付テハ設立委員ハ內閣總理大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ前條ノ出資申込書ヲ添附スベシ

第三條 出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ設立委員ハ一定ノ期間內ニ其ノ拂込ヲ爲スベキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ出資ノ引受ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知アリタルニ拘ラズ出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ其ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スベシ

第四條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝ニ之ニ關スル證憑書類ヲ提出シ內閣總理大臣及大藏大臣ノ檢査ヲ受クベシ

第五條 前條ノ檢査終リタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資者ノ總會ヲ招集スベシ

第六條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各出資者ニ通知スベシ

第七條 設立委員ハ恩給金庫ノ設立ニ關スル事項ヲ總會ニ報告スベシ

第八條 總會ハ出資者ノ半數以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

總會ニ於ケル議決ハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 總會ニ於ケル出資者ノ議決權ハ平等トス

第十條 出資者ハ總會ニ於テ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但シ出資者ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ設立委員ニ差出スベシ

第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十一條 總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內閣總理大臣及大藏大臣ニ屆出ヅベシ

第十二條 恩給金庫理事長設立委員ヨリ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內閣總理大臣及大藏大臣ニ屆出ヅベシ

附則

本令ハ恩給金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年勅令第三百六號

昭和十四年十月十二日印刷
昭和十四年十月十四日發行

內閣恩給局 編纂

內閣印刷局 印刷發行

販賣所 內閣印刷局發行課
東京市麹町區大手町
電話丸ノ內(23)三五一一—三五九
振替東京一九〇〇〇
全國各地官報販賣所
全國各地主要書店

定價三十五錢

781
333

内閣印刷局發行
官報 某圖書 廳編

内閣

官報 {二ヶ月 部 0.05 / 0.95}
週報 ……0.05
週報合本
- 昭和十二年上篇(一號—三七號) ……1.85
- 昭和十二年下篇(三八號—六三號) ……1.30
- 昭和十三年上篇(六四號—八九號) ……1.30
- 昭和十三年下篇(九〇號——一五號) 1.30

寫眞週報 ……0.10
月刊 法令全書 {0.80 / 送料 0.14}
官廳刊行圖書月報 {0.40 / 送料 0.06}
昭和十四年用 職員手帖 ……0.40
職員錄 昭和十四年七月一日現在 {3.80 / 送料 0.38}
第七十四回帝國議會議事速記錄集 {3.80 / 送料 0.38}
昭和十四年 列國國勢要覽 ……0.15
勞働統計月報 ……0.10
月刊 企畫 ……0.30
標準用語集(電氣用語の部) {0.30 / 送料 0.06}
昭和十二年 列國資源撮要 第四號 {0.45 / 送料 0.09}
重要鑛物資源資料目錄 ……1.00
全國公私試驗研究標語試驗研究項目要覽(昭和十二年第六號) ……2.20

外務省

條約彙纂
- 第一卷改訂版(日本國及各國間諸條約) ……17.00
- 第二卷第七部(一般國際條約集) ……9.00
- 第三卷第五部(東方時價問題關係諸條約) ……4.50

大藏省

昭和十四年六月改訂 外國爲替管理法及關係命令 {0.20 / 送料 0.08}
昭和十四年四月改訂 臨時資金調整法令 {0.16 / 送料 0.08}
第四十五回 銀行總覽(昭和十三年末現在) {2.50 / 送料 0.14}
英文 日本財政經濟年報(1938年) {2.00 / 送料 0.14}
昭和十一年 日本外國貿易年表 下篇 {3.00 / 送料 0.14}
昭和十二年 日本外國貿易年表 中篇 {6.00 / 送料 0.22}
昭和十三年 日本外國貿易年表 上篇 {5.20 / 送料 0.22}
昭和十二年度 國債統計年報 {2.20 / 送料 0.10}
國債法規 {12.00 / 送料 0.22}
國債法規提要 {2.00 / 送料 0.09}

陸軍省

昭和十四年度版 帝國及列國の陸軍 ……0.30
國家總力戰の戰士に告ぐ {0.10 / 送料 0.08}
支那事變下に再び陸軍記念日を迎へて {0.15 / 送料 0.06}

海軍省

東亞新秩序の建設と帝國海軍 {0.10 / 送料 0.08}

文部省

國體の本義 ……0.35
國體の本義解說叢書 ■明治以後詔勅謹解 ■日本の儒教 ■我が國體と神道 ■我が風土・國民性と文學 ■我が國體に於ける和 ■帝國の精神 ■帝國憲法と臣民の權利 ■日本の美術 各冊 0.20

教學叢書
- 第一輯 ……0.55
- 第二輯 ……0.45
- 第三輯 0.50 / 送料 0.10
- 第四輯 0.45 / 送料 0.06
- 第五輯 0.45 / 送料 0.06
- 第六輯 0.55 / 送料 0.09
- 特輯第一篇 0.90 / 送料 0.10
- 特輯第二篇 0.55 / 送料 0.06

學校體操教授要目 ……0.15

日本諸學振興委員會研究報告
- 第一篇(教育學) ……0.85
- 第二篇(哲學)…… {1.00 / 送料 0.10}
- 第三篇(國語國文學)… {1.10 / 送料 0.10}
- 第四篇(歷史學)… {0.90 / 送料 0.10}
- 第五篇(經濟學)… {0.65 / 送料 0.10}
- 特輯第一篇(哲學)… {0.50 / 送料 0.09}

青年學校關係法令追錄 ……0.20
青年學校教授及訓練要目(職業科) {0.65 / 送料 0.10}

農林省

米穀關係法規 ……0.25
水產會關係法規 ……0.30
輸出水產物取締關係法規 {1.20 / 送料 0.06}
中華民國北支中支新政府並滿洲國水產物輸入關稅及同輸入統計表 …… {0.35 / 送料 0.08}
米國に於けるレイヨン關係案取引取締規則と織物內容表示問題 …… {0.25 / 送料 0.08}
米國に於ける織物關係案取引取締規則竝聯邦通商委員會の概要 …… {0.75 / 送料 0.08}

商工省

纖物產額月報 ……0.13
物價統制の大綱 {0.08 / 送料 0.08}
物價統制實施要綱 {0.12 / 送料 0.08}
重要物資の配給統制 {0.25 / 送料 0.06}
輸出入品等に關する臨時措置(追錄第十一回)に關する法律及關係法規集(加除式) {1.20 / 送料 0.09}
昭和十二年工場統計表 {6.50 / 送料 0.22}

厚生省

本邦大都市に於ける土地家屋賃貸狀況調 {1.20 / 送料 0.09}
救護關係法規 …… {1.10 / 送料 0.09}
兒童保護關係法規 …… {0.50 / 送料 0.06}
傷痍軍人保護關係例規 {1.00 / 送料 0.10}
退職積立金及退職手當法關係法令 ……0.12

會計檢查院

會計檢查法規集 {4.50 / 送料 0.22}
昭和十二年刊行 帝國決算統計 ……4.50

申込所 內閣印刷局直賣所 / 全國各地官報販賣所 / 全國各地主要書店 (外國賣及外地は送料)

781
333